

大阪医科大学学報

第84号 平成22年5月
(インターネット版)



三色堇 (さんしきすみれ)

◆目

平成22年度入学宣誓式	2
最終講義	5
名誉教授称号授与	11
理事長就任挨拶	12
共同ステートメント	14
新任教授紹介	16
病院長就任挨拶	17
図書館長就任挨拶	18
受賞等について	19
行事日程	21
学位記授与式	22
平成22年度科学研究費補助金交付内定	24
研究助成金等	27
三大学医工薬連携科学シンポジウム	28
平成22年度事業計画及び予算の概要	29

◆次

中山国際医学医療交流センター	42
教育センター	45
臨床研究教育研修会報告	48
学内行事	49
市民公開講座	55
キャリア形成支援センター	56
医療安全対策室	58
感染対策室	59
寄付金報告	60
附属病院関係事項	61
主要会議報告	62
入学試験・国家試験状況	66
保健管理室からのお知らせ	67
平成21年度LDセンター活動予定	69
歴史資料館関係・俳句	70

平成22年度入学宣誓式

医学部 看護学部

日時：平成21年4月3日（土）14：00～

場所：高槻現代劇場 B2F 中ホール

入学生：医学部医学科 114名 看護学部看護学科 88名



■平成22年度 医学部 看護学部 合同入学式告辞

学長 竹中 洋

大阪医科大学医学部第65期生並びに看護学部1期生の諸君、ご入学おめでとうございます。また、ご家族の皆様にも御祝い申し上げます。本日、入学式にご参列頂いているご来賓並びに本学教職員各位には心より御礼申し上げます。本年の入学式は大阪医科大学の80有余年の歴史にとりまして看護学部新設年度という格別の意味があるものでございます。

さて、医療の発達、医師の分野に置いて専門性の確立と高度技術の開発が根底にあります。またこれらの現象は、生命活動の研究であるライフサイエンスや微粒子分野を取り扱うナノサイエンスの裏付けによるものであります。

具体的には、医学生が学ばなければならない学問体系は、近代医学の萌芽であった人体解剖から、先に述べた果てしなく先端科学に近づくものまで膨大な知識量となっています。しかし、多くの医師は最低限度の関門として、病める人と接し、情報を得、知識や技術を間違いなく使うという、高い職業倫理と社会的役割分担を求められています。医学部に入学された諸君は、医師が本質的に持っているこの重要な責任についてここで再度確認を頂きたいと思えます。

一方、従来は基本的に医学に含まれていたと考えられる看護学も、独立した学問として「看護、介護から予防」まで含み、大きな社会的責任と情報量を持っています。その活動範囲は、病人を対象とした狭い医療の世界に留まってはいません。少子高齢化社会の担い手として国民的責務を負う職業人養成学部であります。

臨床の現場に目を移せば、患者さんを中心として医師と看護師或は薬剤師、保健師などのコメディカルのスタッフが居ます。医療提供者は免許で役割分担がされています。しかし、患者さんから見ればおのおの違う役割を分担している職種を厳密に区分しているのでしょうか？むしろ、病気を診断してくれた医師、病棟で看護サービスを受けた看護師、服薬指導をしてくれた薬剤師など、主たる医療提供者が



変わることにそろそろ気づいているのではないのでしょうか？ この現象は狭義のチーム医療とは少し異なった概念であろうと思っています。

時あたかも医療崩壊が叫ばれ、医師不足が声だかに取りざたされています。しかし、本日入学された皆様が成熟し、医師になれるのは20年後としますと、日本人の人口は減少し1億人を切っていると考えられます。急務は医師、看護師が協調して働き、国民の幸福に繋がる医療を構築して参ることであります。ここに入学を許された皆様は新生大阪医科大学1期生であるとともに、新しい知性と感覚を持った医療人を目指して同じ学び舎に学ぶことを考えて頂きたいと思います。我々教職員も新しい時代の医療人育成に全力を注ぎたいと考えています。

以上をもって、入学式の学長告辞と致します。



大学院医学研究科

日 時： 平成22年4月2日（金）14：00～

場 所： 別館3階 大学院多目的講義室

入学生： 42名

■平成22年度 大学院医学研究科入学式 告辞

学長 竹中 洋

平成22年度大阪医科大学大学院入学生の皆様、ご入学おめでとうございます。さて、本日から大学院で皆さんは学士（医学）から、博士（医学）の道を歩まれることになります。

学校教育法第65条第1項に大学院は、「学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥をきわめ、または高度の専門性が求められる職業を担うための深い学識及び卓越した能力を培い、文化の進展に寄与すること」を目的とすると決められています。また、特に、大学院のうち学術の理論および応用を教授研究し、高度の専門性が求められる職業を担うための深い学識および卓越した能力を培うことを目的とするものは、専門職大学院とされる（同じく学校教育法第65条第2項）。現在問題になっています法科大学院がこれに当たります。

大学院をおく大学には、研究科をおくことが常例とされる（学校教育法第66条の2本文）。研究科は、専門分野に応じて、教育研究上の目的から組織されるものである（大学院設置基準第5条）。本学の大学院はこれに該当します。

過去2年間大阪医科大学では大学認証で指摘された大学院の種々の課題に対応して来ました。系の一本化や社会人大学院制度導入によるキャリア形成面への配慮、また大学院専任教授枠の確保、長期履修制度の制定や研究生制度の見直しがこれに当たります。今年度、上半期中には大学院教員制度の実質化を目標としています。



ところで、医学部や医学研究科を取り巻く社会環境はどうでしょうか？ 高度の技術を持つことを義務とされ、生涯教育が必要とされる医師の評価は専門医と、持続的な自学自習をもたらす科学的思考で担保されます。表現を変えれば、我々は初期研修医から後期研修医と進みながら、専門医の資格を得、研究科で学ぶことで科学的思考を身につけることが出来ると考えています。現に皆さんの中で臨床医を目指す多くの人達が、社会人大学院制度を利用して入学をされています。この制度を維持発展させるためには、就学中の職業人の担保が大きな課

平成22年度入学宣誓式 看護学部

題となります。レジデント制度は2年間しか認められていませんので、我々は指導教官とともに皆さんのキャリア形成に万全の取り組みが出来るようにと考えています。

科学的思考と申しましたが、これは教育を受けたからと言って直ちに身に付くものではありません。自分が明らかにしたいもの、即ち動機付けがあり、目的が明らかになります。そして、その周辺事実を過去の事例で探します。文献検索はこれに当るでしょう。読み込み、取捨選択をし、モデルを想定し模倣することから研究がスタートします。手技や思考が検証できればこの模倣に研究者のoriginalityが加わります。得られた結果を考察しその中に真実を見つけ出すための傍証を重ねること、これら一連の作業が科学的思考であります。でも、この膨大な作業に絶望しないで下さい。臨床ではこれをEBMと呼んでいます。大学院で研究の道を選ばれた諸君は王道を選択したことになります。王道を歩み続けるか否かは諸君の今後の精進と大阪医科大学の責任であることを指摘して学長告辞と致します。

† 看護学部第1期生を迎えて †

4月3日、大阪医科大学看護学部1期生88名は、医学部第65期生とともに平成22年度入学宣誓式に臨みました。

本年度、看護学部に着任した教授9名、准教授4名、講師4名、助教9名、総勢26名の教員が見守る中、新入生は先輩が奏でる音楽に迎えられて入場。真剣な面持ちで学長告示・来賓祝辞に聴き入り、氏名点呼・宣誓書朗読を元気に行う姿は、壇上で緊張しながら座っていた新任教授にとって、なにより頼もしいメッセージでした。

入学式後、新入生が先輩からクラブ紹介にのぞむ間、教員は100名以上の保護者を迎えて説明会を催しました。

竹中学長による「学歌の由来」に始まって、植木理事長の祝辞、大槻広報・入試センター長のPA会事業ご案内、林学部長のあいさつ、各教員による担当教科・前任校の紹介、道重看護学部教育センター長による教育内容説明、荒木看護学部学生生活支援センター長による学生生活の説明と続けました。

5日、看護学部の講堂で行った新入生オリエンテーションでは、教員が自己紹介とともに期待や抱負を語りました。本学医学部出身の土手教授は「同門として、この1期生の中から将来の学部長が誕生して欲しい」と激励、学生達から拍手がわき起こったのは特に印象的でした。

その後、学校生活や履修に関する説明、学外合宿などの一週間の準備期間を経て、12日から授業が始まりました。様々な高校から入学してきた学生と同じく、教員も様々な大学や病院から転任しています。新しい環境で戸惑うことの多い新学期ですが、教員一同、学生たちと一丸となって、医看融合教育を形作っていかうと決意を新たにしています。

(看護学部 教授 前田 環、病理学)



最終講義

内科学Ⅲ 教授 北浦 泰

本年3月をもって定年を迎えられました内科学Ⅲ・北浦 泰教授の最終講義が以下のとおり行われました。

なお、4月1日付で名誉教授の称号を授与されました。

日時：平成22年2月17日（水）14：00～15：00

場所：臨床第1講堂

演題：『循環器疾患とともに四十年』



本日は、貴重なお時間を割いて私の最終講義にご出席戴きまして有り難うございます。竹中校長先生からご紹介戴きましたように、私は昭和41年本学を卒業、第三内科学教室に入局して以来ずっと循環器疾患と関わって来ましたから、正確には「循環器疾患とともに43年」と言うこととなります。入局当時の我が国における循環器病学は、未だ欧米の新しい知識や技能を取り入れなければ成立しない状況でした。幸いにも教室には米国から留学帰りの鷹津正教授、柏井忠治郎助教授、河合忠一講師、塘二郎助手などがおられて最新の循環器病学薫陶を受けることが出来、幸せであったと感謝しています。

循環器疾患と言えば直ぐに高血圧症、狭心症、心筋梗塞のみを考え勝ちですが、実に様々な心血管疾患を含んでいます（表1）。

先ず、これらの中から入局して間もなくに経験した忘れられない症例について話します。28歳の健康だった男性が、かぜ症状に続いて完全房室ブロックによる意識消失と痙攣（ストークス・アダムス症候群）を来し入院、心筋生検により急性心筋炎と診断することが出来ました。この生検心筋の組織所見は衝撃的で、心筋生検の威力と心筋炎の多彩な病像に魅せられ今日まで研究を続けることになりました。第三内科における心筋生検施行症例数は約2,500で我が国随一であると思います。また、この症例は当時の急性心筋炎は急性期を乗り切れば完全治癒するとされていた常識を覆すもので房室ブロックや心拡大を後遺しました。この経験から私は、鷹津教授や河合講師と共に「拡張型心筋症のウイルス病因説」を提唱、これを検証するために臨床・基礎の両面から検討することとなりました。臨床的には、先ず急性心筋炎症例を集めて経過を明らかにしようとしたしましたが、心筋炎が稀な疾患であるため限られた施設では不可能と判断、厚生省特定疾患特発性心筋症調査研究班のプロジェクト研究として全国より心筋炎症例約270例を集めることが出来ました。この成績をもとに作成したのが「急性ウイルス性または特発性心筋炎診断の手引き」で現在も広く用いられています。しかし、予想に反して急性心筋炎が遷延して拡張型心筋症様に移行することは殆どないことも明らかになりました。

しかし、拡張型心筋症心筋症患者における血清ウイルス抗体価の検索ではコクサッキーB群ウイルスなどに対する血清抗体陽性率が高く、海外からも我々と同様の報告がされました。従って、単純に急性ウイルス性心筋炎が拡張型心筋症に移行するという仮説は否定的になりましたが、拡張型心筋症がコクサッキーB群ウイルス感染と関連している可能性が示唆されました。

[循環器疾患の分類]

冠動脈疾患：狭心症、心筋梗塞

弁膜疾患：リウマチ性

心筋・心膜疾患：心筋症、心筋炎など

先天性心疾患

大動脈疾患

高血圧症

不整脈

心不全

その他

表1 循環器疾患の分類

そこで、動物モデルを用いてウイルス性心筋炎と拡張型心筋症との関連を検討しました。この研究の途中で胸腺を摘出したマウスでは心筋から高濃度のウイルスが分離されるにも関わらず極めて軽症の心筋炎しか来さない事実遭遇しました。当時は、細胞性免疫に関しては殆ど判っておらず、この結果は免疫の常識を外れるとして無視されることとなりました。それから数年後にWoodruffらはコクサッキーウイルス性心筋炎における心筋細胞傷害はウイルス直接より細胞性免疫によることを報告しました。科学においては常識より事実が優先することを身をもって体験し、事実を広く知って貫うためには勇気とエネルギーが必要なことを痛感しました。後に出口教授は、ウイルス性心筋炎における細胞免疫による心筋細胞傷害機序を光顕・電顕的に解析し日本循環器学会の最高栄誉賞（佐藤賞）を受賞しています。時間の都合で実験の詳細は省略しますが、コクサッキーB3ウイルス性心筋炎動物モデルについて森田大教授、出口寛文教授、小出尚志博士、小高正裕博士、浮村聡教授および藤岡重和講師などとの共同研究により以下の結果が得られました（表2）。

一方、臨床においては拡張型心筋症患者心筋におけるコクサッキーB群ウイルスゲノムの検索や組織所見を明らかにしようとしました。当時普及し始めたPCR法を用いて生検心筋標本および須磨久善博士より恵与された左室縮小形成術（主にBatista手術）での切除心筋で検討しました。結果は最大30%を超える患者心筋からエンテロウイルスゲノムが検出され、遺伝子配列からコクサッキーB3（Nancy株）ウイルスに最も近いことが判明しました。さらに、藤岡講師

と浮村教授らはプラス1本鎖RNAウイルスであるコクサッキーウイルスが複製される際に出現するマイナス1本鎖RNAを検出、*in situ hybridization*法により心筋に局在することを証明、末期拡張型心筋症患者では持続的にウイルスの複製が行われていると結論しました。

これらの心筋の組織学的検討は、寺崎文夫准教授、神崎裕美子講師、塚田敏博士らにより行われ、臨床的に末期の拡張型心筋症と診断された症例の中には少なからず病理学的に慢性心筋炎と考えられる症例があり、コクサッキーB群ウイルスゲノム陽性率の高いことも明らかにされました。この成績をもとに「慢性心筋炎診断の手引き」が作成され、全国的に広く用いられています。さらに、コクサッキーB群ウイルスゲノム陽性症例ではBatista手術後の短期予後が極めて不良なため、手術適応の判定にも利用されています。また、寺崎准教授は末期拡張型心筋症と診断された症例の中には心サルコイドーシスも少なからず誤診されて混入していることを指摘し、この疾患は副腎皮質ステロイドが効果的であるため見逃してはならないと警鐘を鳴らしています。心サルコイドーシスの診断は必ずしも容易ではないが新しい炎症のバイオマーカーが有用であることを提唱しています。

一方、拡張型心筋症症例に原因遺伝子が次々に発見されるようになり、その頻度は家族性肥大型心筋症の約50%に比較すれば低いですが、家族性拡張型心筋症では約12%、孤立性でも約5%で、タイチンやデスミンをコードする遺伝子異常が多いとされています。また、心筋のカルシウム感受性制御に関与する遺伝子も注目されています（図1）。

高血圧症に話を移します。我が国における高血圧患者数は約3,500万人、70歳以上では2人に1人で医療行政上最も重要とされています。しかし、血圧が測定可能になったのは100年前、効果的な降圧療法

[マウス]

離乳期の限られた系が重症の急性心筋炎を来す。
心筋傷害はウイルス自体より細胞性免疫が重要である。
心筋炎病巣にヒトでは見られない石灰沈着を来す。
インフルエンザA（PR8）でも急性心筋炎を来すことがある。
急性期に著明な左室収縮・拡張機能低下を来す。
接種9日頃までウイルスが分離される。
RT-PCR法で摂取6カ月後までゲノムを検出する系がある。
拡張型心筋症類似の病態には進展しない。

[ハムスター]

急性心筋炎を来す。
急性期に著明な左室収縮・拡張機能低下を来す。
左室が拡張し、拡張型心筋症類似の病態に進展することがある。

表2 コクサッキーB3ウイルス（Nancy株）性心筋炎動物モデルより得られた成績

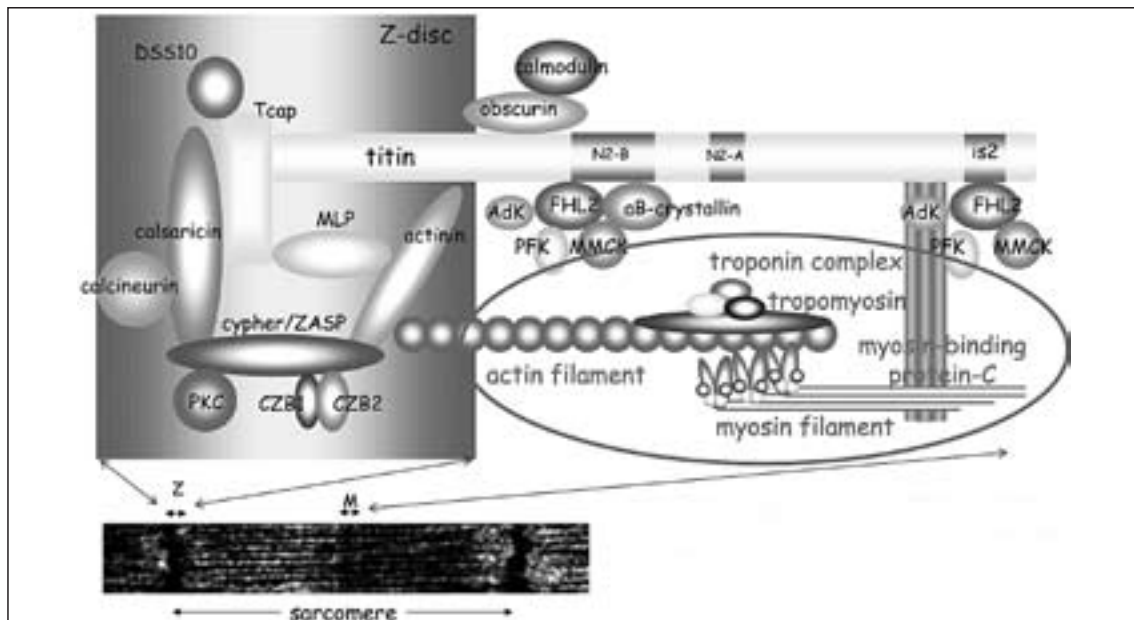


図1 心筋サルコメア構成要素の関連とカルシウム感受性制御(木村彰方、2001より)

が可能になったのは僅か30年前です (表3)。

血圧は従来の医師が測定していた随時血圧より家庭血圧が重視されるようになり、高頻度に早朝高血圧が見られ心血管事故の多いことが判ってきました。また、多くの大規模臨床試験のメタ解析から心血管事故が最も少ない至適血圧という概念が提唱され、これを目標とした積極的降圧療法が推奨されています。

循環器の教科書によれば、狭心症は冠動脈狭窄により生じる心筋の一過性虚血で、胸痛や胸部絞扼感を来すと記載されています。

学生時代、狭心症・心筋梗塞は試験のやまで誰もが詳しく勉強した訳ですが、先に述べたように冠動脈の狭窄・閉塞がないと起こりえない疾患と信じていました。父が内科医で、「明け方に限ってひどい狭心症と思う発作を起こす患者さんがいるけれど、心電計を用意して往診に付いてきて欲しい」と言われました。寒い冬の夜更けに往診に同伴したところ、胸を鷲づかみにしてもがいている若者がいて心電図は心筋梗塞のようにSTが上昇、急いでニトログリセリン錠を舌下投与したところ嘘のように発作が消失しました。この若者は鉄工所に勤めていて人並み以上に働いているとのことで、他院で「心臓神経症」、「肋間神経痛」、「ヒステリー」などと診断され、大量の精神安定剤や鎮痛薬を投与されていました。この症例を教授に相談したところ冠動脈狭窄がなければ起こ

1905年	Korotkovが初めて聴診器で収縮期血圧/拡張期血圧を測定
1931年	Riva Rocciにより水銀血圧計が発明され普及
1948年	ルーズベルト大統領が高血圧性脳出血で死亡、Framingham 研究開始
1953年	レセルピン(交感神経抑制薬)
1960年	サイアザイド系降圧利尿薬
1963年	初めて高血圧治療薬の効果を確認
1978年	β遮断薬(インデラル) β遮断薬
1982年	Ca拮抗薬(ニカルジピン)、ACE阻害薬(カプトプリル)
1998年	アンギオテンシンII拮抗薬(ロサルタン)
1986年	小型自動血圧計(自動血圧計)
1995年	仮面高血圧、早朝高血圧、家庭血圧などが明らかとなり、随時血圧より家庭血圧が心血管疾患の危険因子として重視される。
2004年	正常血圧(<140/<85mmHg)、至適血圧(≦120/≦80mmHg)とし、積極的な降圧を推奨

表3 血圧と高血圧治療の歴史

最終講義

りえないと言われ、労作によって起こらないのは？ 明け方に限って起こるのは何故？ などしつこく質問したところ気分を害されました。さらに、この症例に当時発売されたばかりのワソラン（ベラパミル）が劇的に効きました。泰江弘文先生が血管攣縮性狭心症を初めて報告される約10年も前のことです。

現在、冠動脈疾患の治療として経皮的冠動脈形成術（PCI）が注目を浴びています。1970年頃から選択的冠動脈造影が行われるようになり、1977年 Gruentzigが初めてPCIを施行、これが一気に全世界的に普及しました。その後のPCIにおける用具、手技の発達はめざましく、薬剤溶出性ステント（DES）の普及以前の我が国におけるPCI数は人口10万当たり87と冠動脈バイパス術の6.2倍であったのが、DESの普及後飛躍的に増加しました。現在、関連施設を加えた冠動脈造影件数は年間約2,000例、PCI件数は約700例です。大学病院では主にリスクが高く手技が困難な慢性完全閉塞（CTO）やバルーンで拡張不能な高度石灰化症例などを扱っています。

PCIは急性冠症候群の初期に行う必要があり早期診断が必要で、急性心筋梗塞の血中バイオマーカーとしてCK-MB、トロポニンなどが用いられて来ましたが、田中孝教授、宗宮浩一講師らはヒト脂肪酸結合たんぱく（H-FABP）に注目し迅速診断キット（ラピチェック）を開発し、全国的に急性心筋梗塞の早期診断に用いられています。

次に、不整脈について述べます。従来、不整脈の治療は薬物療法が主体でしたが、電気生理学的検査（EPS）の発達と共に高周波心筋焼灼術（ABL）により頻脈性不整脈の根治療法が可能になりました（表4）。

心臓電気生理検査EPS (Electrical Physiological Study) → 心腔内心電図での不整脈機序の解析、重症度の評価 → 徐脈性、頻脈性不整脈 高周波心筋焼灼術ABL (Radio Frequency Catheter Ablation, RFCA) → カテーテルを用いた頻脈性不整脈の根治手術
--

表4 心臓電気生理検査と高周波心筋焼灼術

高周波心筋焼灼術は、1982年に難治性上室性頻拍症例にカテーテルを右室に挿入、房室接合部に接着させ直流通電し房室をブロックを作成するのに成功したのに始まりますが、1990年以降はlarge tipカテーテルを用いた高周波アブレーションを行うようになり、成功率が高くなりました。また、機器の発達も著しく CARTO-XPシステムを使って心臓における興奮伝達が可視化され、焼灼部位の特定が容易になっています。最近では、ABLの適応が拡大して心房細動にも行われるようになりましたが、洞調律に戻すのが良いのか心拍数を調節するのが良いのかの結論は得られていません。

最後に心不全に対する治療の変遷について述べます。1980年以前の慢性心不全に対する治療は、利尿薬に加えて「弱った馬を鞭打つ」カテコラミン、ジギタリス、キサンチン誘導体による療法でしたが、Waagsteinがβ遮断薬療法を提唱してから「弱った馬は荷物を下ろしてゆっくり歩かせる」療法に180度転換しました。これにより拡張型心筋症患者に対するβ遮断薬療法導入以前の5年生存率が50%であったのが、現在は80%までに改善しています。また、心不全に対する考え方も、心不全は単純なポンプ失調によるとする考えからレニン・アンジオテンシン・アルドステロン系の失調、さらには交感神経系の失調が重要視されるようになりました。最近では、心不全の成因として拡張不全が重視されるようになり、

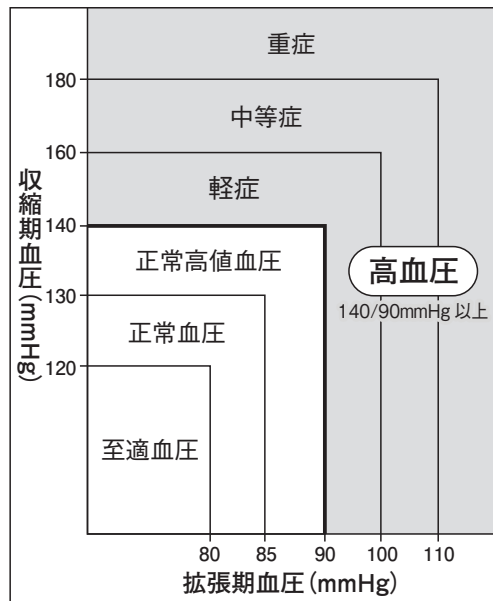


図2 新しい高血圧の基準と血圧の分類

高齢女性の高血圧患者の場合は50%が拡張不全に基づく心不全であることが明らかにされています。また、最近では睡眠時無呼吸による心不全の増悪が注目されており、林哲也准教授らは睡眠時無呼吸による間欠的低酸素血症を動物実験で再現して心筋病変が加速されることを証明しています。さらに、これに対してアンギオテンシンⅡ遮断薬（ARB）などの投与が有効と報告しています。



私は、このように楽しみながら循環器疾患患者さんや循環器病学と関わり合うことが出来ました。その僅か40年間に疾患概念、病因や治療法が180度変わるのを目の辺りにしました。これらは過去の常識が現在は非常識となってしまったもので、当然、現在は正しいと考えている常識が未来には誤っていることが明らかにされ非常識となる可能性があります。私の経験から基礎・臨床を問わず真摯に向かい合うことを忘れなければ、皆さんの誰もが必ず生涯に何度か大発見・発明に繋がる事実を掴むことが出来ると確信しています。また、この際に新しい発見・発明を世間に広く認めてもらうためには努力のみならず勇気を持って対処する必要があると痛感しています。

最後に、皆様のご健勝とご発展を祈念して私の最終講義を終わりたいと思います。



最終講義 化学・生体分子学 教授 古谷 榮助

本年3月をもって定年を迎えられました化学・生体分子学・古谷榮助教授の最終講義が以下のとおり行われました。

なお、4月1日付で名誉教授の称号を授与されました。

日 時：平成22年3月17日（水）14：00～15：00

場 所：臨床第I講堂

演 題：『代謝研究の楽しみ』



今日は私がこの30年間おこなってきた代謝調節の研究の中から、身近な生活上の問題に関連する生化学的問題についてお話をしたいと思います。

肝臓の解糖系は摂食後に働き、空腹時には働きません。その調節を行っている酵素はPFKであることは1940年代の初めより知られていましたが、その機構は長い間不明でした。私は1980年テキサス大学留学中に肝臓の抽出液中に強力なPFKの活性化因子が存在することを見つめました。この因子を精製し、その化学構造を決定し、これが今までに知られていない新しい化合物、フルクトース2,6二リン酸(F26BP)であることを示しました。さらにこの化合物を合成する酵素を見出し、これがcAMP依存性蛋白リン酸化と蛋白脱リン酸化によって活性調節を受けることを明らかにしました。その後この酵素はF26BPの合成と分解をおこなう二機能酵素(F26BP合成・分解酵素)であることが示されました。空腹時にはグルカゴンの作用でF26BP分解活性が上昇してF26BPは消失し、肝臓の解糖系の反応が停止するとともに、F26BPで阻害されていたFBPアーゼ活性が出現して糖新生が亢進します。摂食後は逆に解糖系が亢進し、生じたピルビン酸はクエン酸を経て脂肪合成に使われます。フルクトースはF26BP合成を促進する作用を持つので砂糖の摂取は脂肪太りの原因となります。

アルコールは大量に飲めば脂肪太りを招きますが、飲み方によっては脂肪太りを抑えることも可能です。アルコール脱水素酵素の作用で肝細胞内のNADHレベルが上昇し、その結果、解糖系の代謝中間体であるジヒドロキシアセトンリン酸が還元されて、グリセロリン酸が生じます。これがF26BPの合成を阻害し、その分解を促進するので、F26BP濃度は低下して解糖系の反応は停止するからです。ただ、このときF26BP濃度が低下しても糖新生は促進されません。糖新生の基質は乳酸とアミノ酸ですが、NADHレベルの上昇によって乳酸からピルビン酸への反応とTCAサイクルの反応が進みにくくなるために、糖新生の反応が抑制されてしまうからです。アルコールによる悪酔いはこの糖新生の抑制によって起こる低血糖状態です。脳はグルコースだけしかエネルギー源としないので低血糖によってエネルギー不足の状態に陥ります。すべての細胞はエネルギー不足に陥れば壊死しますので、酒を飲んでゲロを吐くときは脳ミソを吐いていると思わなければなりません。

骨格筋では肝臓と同じ遺伝子からF26BP合成・分解酵素が合成されますが、異なるエクソンが用いられるために、リン酸化・脱リン酸化を受けない酵素が発現します。



そのため骨格筋では大幅なF26BPレベルの変動はないはずですが、ところが以前に、骨格筋では運動によって極めて短時間にF26BP濃度が上昇するという報告がなされました。私たちはこの実験の再現につとめました、再現はできませんでした。よく考えてみれば骨格筋ではF26BP濃度が上昇して、積極的にグルコースを利用することはあり得ないことです。血糖の総量は5g程度で、エネルギーに換算して20kcal程度しかありません。F26BP濃度が上昇して解糖系が促進されたならばたちまちのうちに低血糖に陥ります。運動時にはグリコーゲン分解が起り、F6P濃度が上昇することによってPFKの反応が進行するだけで、F26BP濃度が上昇してはならないのです。

持久運動では主に脂肪酸がエネルギー源となりますが、グリコーゲンが枯渇すれば持久運動もできなくなります。一つの原因はTCAサイクル代謝中間体の量が低下し、サイクルの流れが弱くなり、その結果ATP供給が低下することです。TCAサイクル代謝中間体の減少は筋肉で分枝鎖アミノ酸が代謝される際に α -ケトグルタル酸がグルタミン酸となって除かれるために生じます。グルタミン酸はさらにグルタミンに代謝されリンパ球や小腸の上皮細胞でエネルギー源として利用されます。筋肉にTCAサイクル代謝中間体を供給できればグリコーゲンが枯渇しても持久運動を続けることができるはずですが、筋肉に取り込まれやすく、TCAサイクル代謝中間体を供給する物質はグルタミンです。実際にグルタミンを供給することで持久運動能を改善する結果を得ることができました。

グルタミンはリンパ球の最も効果的なエネルギー源としての役割を担っているために、血中グルタミン濃度の低下は免疫力の低下をもたらします。グルタミン合成の基質は筋肉のグリコーゲンから供給されるので、激しい運動で筋肉のグリコーゲン量が低下すると血中グルタミン濃度が低下して感染症に罹りやすくなることが予想されます。実際に激しいトレーニングで感染症に罹る率が上昇し、グルタミン投与でこれが防がれることが示されています。高齢者、長期入院患者では筋肉量の低下のために筋グリコーゲン量が低下し、感染症に罹りやすくなります。このような人ではグルタミンの投与が効果的です。健康者であれば運動で筋肉を鍛え、タンパク質を多く含んだ食事を摂ることが重要です。健康を維持するには適度な運動とバランスのよい食事が大切といわれますが、それはこのような理由によっています。

私は今までの46年間の研究生活を振り返って、接してきた人達や研究結果に恵まれ本当に幸運でした。敢えて難を言えば、私の努力不足のために舞い込んだ幸運を100%育て上げることができなかったことです。よく研究での成功は運によるといわれますが、それ以上に重要なことは舞い込んだ幸運を守り育てる努力であると思います。どうか研究ですばらしい成果を上げようと思う人たちはこの努力を忘れないで頂きたい。

名誉教授称号授与



平成22年4月1日（木）午前11時より学長室において、3月末日をもって定年退職されました北浦 泰先生、ならびに古谷榮助先生に名誉教授の称号が授与されました。



理事長就任にあたって

理事長 植木 實

國澤隆雄前理事長の任期満了に伴い、平成22年4月1日付で第8代目の理事長に就任いたしました。

近年の世界不況の中、保険医療費の抑制が続いており、大学への補助金も減少の一途を辿っています。この厳しい社会情勢の下、また、多くの問題を抱える私立医科大学を管理・運営することは容易でなく、責任の重さに身の引き締まる思いであります。

私は、教職員のご協力を得ながら、本学の建学の精神（ミッション）「人間性豊かな良質の医療人の育成」及び3つの目標（ビジョン）「①最優の医科大学を目指す、②患者本位の開かれた医療機関となる、③地域社会との共生を図る」を基に策定した新しい中長期計画を、私の抱負や学長との共同ステートメントを含めて積極的に取り組んで参りたいと思っております。

最初に、國澤相談役が理事長時代に行われた法人及び大学の重要な改革について振り返りたいと思います。國澤先生が理事長に就任される以前（7～8年前）は、理事会や種々の組織内審議及び決定事項についてほとんど公表がされない、即ち透明性の極めて少ない状態でありました。國澤先生はまず少しずつあらゆる規程類を改定・整備されて風通しを良くし、多くの事項について学報やホームページなどへの掲示、報告会を行うなどの情報開示に加え、財務諸表についても公開を始められ、時代が求めるアカウンタビリティやコンプライアンスの責務に応えようと努めてられました。この地道な努力に加え、石橋を叩いて渡らないともいわれた本学で第一次中長期経営計画を策定し、この実施、特に病院7号館、新講義実習棟及び看護専門学校校舎の建築などといった思い切った大型プロジェクトの実行は、非常に大きな功績であったと思います。我々は、この法人の意識を変えたソフト・ハード両面からの改革の経緯を十分認識し、評価する必要があると考えています。私はその意思を受け継ぎ、一層開かれた、透明性の高い組織作りに努めて参りたいと考えております。

そして、学校法人大阪医科大学がこれから取り組むべき重要な事項について、私の考えを抱負としてまとめましたので、以下に概要を述べます。

1. 本学内には、大きく分けて「教育・研究・診療」に関わる専門部門と、「管理・運営」に携わる法人部門が存在する。この2つの主体は、本学の根幹をなす重要な両軸であり、公正性、透明性の高い経営体制の下、お互いが効果的に影響を与え、協力・融和し合うことが正しい姿であり、この状況を醸す新しい構造の創生を、本学が目指す将来のガバナンスの基本としたい。
2. 寄附行為第3条の目的に従い平成13年に決定した中期5ヵ年経営計画「CS（Challenge and Speedy）21」は、本学運営の基本である建学の精神「人間性豊かな良質の医療人の育成」と、それに基づいて策定された3つのビジョン「①最優の医科大学を目指す、②患者本位の開かれた医療機関となる、③地域社会との共生を図る」から成り立っており、引き続きそれらを堅持する。
3. 長引く世界的不況と近づく超少子・高齢化社会の状況下で、将来を見越して法人の財政基盤の強化を図り、山積する問題を解決するため、速やかに次期中長期5ヵ年経営計画を策定し遂行する。

この具体的事項については6項目を挙げておりますが、紙面の都合で割愛しますので、大学のホームページでご覧いただければ幸いです。



これらの抱負は、いずれ公表される第二次中長期経営計画及び今年度の事業計画に密接な関連性を有しています。

今後は、私の師と仰ぐ方にいただいた『善意通和』を信条に、学内融和を図り、また、抱負や学長との共同ステートメントの内容を含めた目標に向かって、全学一致の体制で大学の発展に努めて参ります。

どうぞ教職員、仁泉会の皆様、学生諸氏並びに関係各位におかれましては、今後ともよろしくご指導、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

略 歴

昭和43年 3月 大阪医科大学大学院医学研究科修了（産婦人科学専攻）医学博士
昭和46年 6月 細胞診指導医（登録番号130）
昭和62年10月 日本産科婦人科学会専門医（登録番号644641 - N-8792）
平成3年 6月 Member of International Academy of Cytology (MIAC)
平成7年 4月 大阪医科大学 教授（産婦人科学）
平成8年 4月 学校法人大阪医科大学 評議員
平成11年11月 学校法人大阪医科大学 理事
平成12年 4月 大阪医科大学附属病院 病院長（4年間）
平成16年 4月 学校法人大阪医科大学 常務理事（1年間）
平成17年 6月 大阪医科大学 学長（4年間）
平成21年 6月 学校法人大阪医科大学 常務理事（1年間）
平成22年 4月 学校法人大阪医科大学 理事長

國澤隆雄理事長の御退任

國澤隆雄理事長（第7代）が任期満了により本年3月31日付をもって退任されました。

國澤理事長は平成8年1月に監事、同年7月には常勤監事、平成14年4月からは常務理事となられ、田中忠彌理事長の後任として平成15年12月から理事長を6年4ヶ月に亘り務められました。

その間、中長期事業計画（CS21）の策定、北西キャンパス、北キャンパス、西キャンパスの購入、病院7号館、看護専門学校校舎、新講義実習棟の建築、健康科学クリニック、看護学部の設置等最優の医科大学を目指して数々の事業を実施され、法人の発展を図られました。

4月からは相談役（常勤）として、今後の法人を見守っていただいております。



新理事長就任に際しての共同ステートメント

平成22年4月1日
学校法人大阪医科大学 理事長 植木 實
大阪医科大学 学 長 竹中 洋

学校法人大阪医科大学（以下「本法人」といいます。）は、去る平成22年3月30日に理事会を開催し、平成22年3月31日をもって任期満了により退任となった國澤隆雄前理事長の後任の新理事長に植木實を選任し、平成22年4月1日をもって就任の運びとなりました。

理事長の就任に際して、私どもは本法人を取り巻く諸問題並びに今後の法人運営の在り方について、今後、新理事会で本ステートメントに沿って審議していくことを確認しました。

私どもは、新体制の下で本日から始まる新年度を本法人の新たなスタートアップポイントと捉え、「教育基本法及び学校教育法に従い、医科大学その他の教育施設を設置し、国際的視野に立った教育・研究及び良質な医療の実践をとおして人類の福祉と文化の発展に貢献する人材を育成する」という寄附行為の目的に基づいて、一丸となって、今後の本法人の進む道に誤りがないように務めていかなければならないと、ここに決意致しました。

本法人の現状は課題が山積しており、これらは本法人の全ての職員の叡智を集めて検討し、克服していかねばならないものと認識しております。本法人職員の皆様におかれましては、当ステートメントの趣旨を踏まえ、今後一層職務に精励して頂きますようお願い致します。本法人の全ての職員の協力の下で、共に本法人の新たな時代を築けることを、私どもは切に望んでおります。

本法人が今後取り組むべき課題

1. 公正性・透明性の高い経営体制の確立（全項目を今年度上半期中の検討課題とする）

1) 理事会構成の改正

- ・病院を統括する病院長を、同職に在任中は理事として選任すること。
- ・卒業生からも理事の選出を可能とすること。

2) 理事選任手続の改革（理事委員会規程の改正）

- ・理事の選出を行う理事委員会の構成員として、常務理事、学長、病院長を職制委員として加えること。（常務理事を置かない時は代わりに理事長が指名する理事が出席すること。）
- ・候補の推薦については、規程上明記すること。

3) 担当理事運営会議の改善

- ・担当理事運営会議の職務の見直しを行い、権限、審議方法、決定事項の執行に関して規程上明文化を図ること。

4) 評議員会の活性化

- 5) 三者懇談会の設置（内規は定めるが決定権は持たない、意見交換の定例化が目的）
 - ・法人、大学、病院の十分な意思疎通のために、理事長、学長及び病院長による定例の連絡会議の設置を検討すること。
 - ・理事は任意に出席し、意見を述べるができること。
- 6) 意見交換会の開催
 - ・理事長は、半期毎に理事会・教授会・診療科長会など関係する部門の代表者による意見交換会を開催すること。
- 7) 人事関係事項の手續の明文化・透明化
 - ・理事会規程において理事会の議決事項とされている人事関係事項の具体的手續について明文化すること。
 - ・人事課が持つ権限と機能を確認し、尊重すること。

2. 経営上の重要事項への対応

- 1) 中長期計画の策定
 - ・CS21以降策定されていない中長期計画を策定・施行し、各部門に明確な目標を与える。
- 2) 財務体質の改善（今年度中の事業見直しと今年度以降の支出削減を行う）
 - ・近年の財務体質の急激な悪化が、本法人の経営自体に影響を及ぼし始めており、早急な支出の削減と既存事業及び新規事業計画の見直しが迫られていることを踏まえ、病院や学部の現場から定期的に経営改善の意見を吸収し、最終的に上記担当理事運営会議で調整すること。
- 3) 耐震補強を含めた病院増改築計画の策定（今年度中の計画策定を行う）
 - ・7号館を除く病院の既存施設については、経年化が進んでおり、新築あるいは増改築あるいは補強を含めた計画の策定を実施しなければならないこと。
 - ・地域における大阪医科大学附属病院機能を明確にし、集中的な病院機能の集約化を図ること。
- 4) 健康科学クリニック事業の在り方（今年度前半に方針決定を行う）
 - ・本法人内の位置付けは大学に置くものとし、法令遵守と雇用を守る姿勢を尊重しながら3年間の事業計画を策定すること。

3. 人材を大切に作る組織風土の醸成（全項目を今年度以降の持続的な取り組みとする）

- 1) 法人全体の意思疎通の活性化
 - ・理事会と職員の間風通しを良くすることにより、本法人を取り巻く諸問題への問題意識を理事と職員が共有し、立場に捕らわれない自由闊達な議論の中で、いかなる難局に直面しても法人として最善の選択が出来得る底力のある組織を目指すこと。
- 2) 優秀な人材の育成と確保
 - ・本法人の規模に鑑みれば、無尽蔵に人材を採用することは出来ないため、職種や部門に関わりなく必要最少数を採用し、代わりにその限られた人材を法人全体として大切に育て上げること。
- 3) 働く環境の整備をはじめとする職員の待遇の検討
 - ・保育所の整備、女性医療人の復職支援などの働く環境の見直しを進め、給与や手当等の問題のみに留まらない包括的な視野から、職員の待遇について抜本的に検討し直すこと。

以上



新任教授紹介

新任教授(耳鼻咽喉科学)紹介

平成22年2月1日付けで、感覚器機能形態医学講座耳鼻咽喉科学の教授を拝命いたしました。本学耳鼻咽喉科学教室の歴史は古く、初代山崎春三教授から、武田一雄教授、高橋宏明教授、竹中洋教授（現学長）へと伝統が引き継がれ、この度第5代教授として教室を担当させて頂くことになりました。このような伝統ある教室を主宰させていただくことの重責を痛感しております。昨今の医師不足をはじめとした医局運営の厳しさを考えると、身が引き締まる思いであります。

私は昭和59年に本学を卒業後、実家が京都であったこともあり、直ちに京都府立医科大学で研修を開始いたしました。翌年には大学院（薬理学教室）に進学し、内耳の生化学、特に現在も継続しておりますプロスタグランジンの研究に取り組みました。昭和63年秋、京都府立医科大学耳鼻咽喉科の教授に、当時わが国の頭頸部腫瘍外科の第一人者であった村上泰教授（現名誉教授）が就任され、そこで頭頸部腫瘍学のイロハから薫陶を受けました。平成5年には米国UCLAのDepartment of Biological Chemistryに留学する機会を得ました。そこはCOX-2を発見した教室であり、幸運にも大学院時代からの研究を継続するテーマを持つことができました。帰国後京都府立医科大学耳鼻咽喉科学教室の助手、講師を勤め、平成9年から2年余は京都第一赤十字病院にて数多くの症例と格闘いたしました。平成11年9月に本学に戻る機会を得てこの10年間、竹中洋教授の指導のもと、臨床、研究、教育に従事して参りました。

私の専門は頭頸部腫瘍学であります。頭頸部外科という言葉もようやく一般の方々に認知されつつありますが、狭義の頭頸部外科が頭頸部腫瘍外科であると考えられます。頭頸部癌の予後は未だ必ずしも良好ではなく、また嚥下、咀嚼、構音など重要な機能を担っていることも大きな特徴であり、やりがいのある分野であると思っています。教室として頭頸部腫瘍学は大きなテーマではありますが、大学病院の診療科として、専門外来、subspecialtyを重視して、耳鼻咽喉科の各分野において、高度な良質の医療を提供したいと考えています。浅学非才の身ではございますが、これまでの耳鼻咽喉科学教室の伝統を守りつつ、臨床、研究において全国に発信できる教室を目指したいと思っております。また大阪医科大学に少しでも貢献できますように精励いたす覚悟でございます。今後皆様には多方面にわたりお世話になることと存じますが、ご指導、ご鞭撻をどうぞ宜しくお願い申し上げます。



感覚器機能形態医学講座
耳鼻咽喉科学
河田 了 教授

昭和33年5月8日生
昭和53年4月：大阪医科大学 入学
昭和59年3月：大阪医科大学卒業
昭和59年5月：京都府立医科大学附属病院研修医
平成元年3月：京都府立医科大学大学院修了（医学博士）
平成5年9月：米国UCLA留学
平成8年7月：京都府立医科大学耳鼻咽喉科講師
平成9年7月：京都第一赤十字病院耳鼻咽喉科副部長
平成11年9月：大阪医科大学耳鼻咽喉科講師
平成12年7月：大阪医科大学耳鼻咽喉科助教授
平成22年2月：大阪医科大学耳鼻咽喉科教授

病院長就任のご挨拶



病院長 木下 光雄

陽気満ちあふれる今日この頃、皆様におかれましてはご清祥のことと拝察いたします。

さて私こと、平成22年4月1日付けで大阪医科大学附属病院長に就任しました。この紙面をお借りして、就任のご挨拶を申し上げます。

本年4月1日に植木 實先生が法人新理事長に就任され、理事会も新しい体制になりました。これを機会に、新理事長と竹中 洋学長との共同ステートメントが発表されました。このステートメントには理事会、大学そして附属病院における解決すべき課題が明記されており、これは開学100年を見据えた行動指針にもなりそうです。

本附属病院は地域に根ざした特定機能病院として「社会のニーズに応える安全で質の高い医療を皆様に提供するとともに、良識ある人間性豊かな医療人を育成します」を理念にかかげています。この理念のもと、共同ステートメントには、医育機関としてのこれからのあり方や、患者様のニーズに適切に対応できるソフト・ハード両面での解決すべき課題が取り上げられています。とりわけ、7号館に次ぐ耐震性のある新病棟の建設が喫緊の課題としてあげられています。新病棟建設は、教職員の強い願いでもありますので、実現にむけて着実に歩んでいきたいと考えています。

本学には今年度看護学部が開設され、医学部医学科と看護学部看護学科の2学部の医科大学として新たな門出を迎えたところです。2学部の卒業生を附属病院に受け入れるのは、まだ先のこととなりますが、新入生の希望に満ちた様子からは明るい未来が約束されたように思われました。病院長としましては、法人、大学と密接な連携をはかりつつ教職員の力を結集して、彼らの卒前・卒後教育に十全の対応をしていきたいと考えています。

本院を取り巻く環境は、とても厳しいものでありますが、将来への明るい展望をもって前進することが求められています。一歩ずつ目標に近づけるよう微力ですが尽力する所存です。

皆様方のご支援をお願い申し上げます。

略 歴

1947年4月1日生

- 1974年3月15日 大阪医科大学 卒業
- 1980年4月1日 大阪医科大学 助手(整形外科学教室)
- 1980年9月1日 高槻赤十字病院副部長(整形外科)
- 1984年2月1日 大阪医科大学 助手(整形外科学教室)
- 1985年1月1日 大阪医科大学 講師
- 1996年6月16日 大阪医科大学 助教授
- 2006年4月1日 大阪医科大学 教授
- 2008年4月1日 大阪医科大学附属病院副院長
- 2010年4月1日 大阪医科大学附属病院院長

《資格》

日本整形外科学会専門医、日本整形外科学会認定スポーツ医、日医健康スポーツ医、日本整形外科学会認定リウマチ医、日本リウマチ学会専門医、厚生省(旧)補装具適合判定医

《役員》

Council member of International Federation of Foot

and Ankle Societies (国際足の外科学会理事)、アジア足の外科学会代表、日本足の外科学会副理事長、日本靴医学会理事、日本整形外科学会代議員、日本整形外科スポーツ医学会理事、日本リウマチ学会評議員、日本関節病学会評議員、日本小児整形外科学会評議員、中部日本整形外科災害外科学会理事、関西臨床スポーツ医学研究会運営委員、大阪府医師会健康スポーツ医学委員会委員、大阪府医師会労災部会委員

《その他》

第23回日本足の外科学会会長(平成10年)
 第13回関西臨床スポーツ医学研究会会長(平成15年)
 第21回日本靴医学会会長(平成19年)
 第115回中部日本整形外科災害外科学会会長(2010年)
 第4回国際足の外科学会(IFFAS)会長(2011年)
 Journal of Orthopaedic Science Associate Editor,
 大阪府医師会医学会誌編集員,
 日本リウマチ関節外科学会誌編集委員(1997~2006年)
 AAOS (American Academy of Orthopaedic Surgeons) traveling fellow (1994), サラマンカ市名誉市民(スペイン, 2000年)

図書館長就任に際して



図書館長 黒岩 敏彦

本年4月1日より、任期を終えられました河野公一教授の後任として図書館長に就任いたしましたので、一言ご挨拶を申し上げます。

1953年に就任された初代の栗原善夫先生から数えて11代目になります。諸先輩方が、時代の要請に答えながら、あるいは先取りする形で連綿と築き上げてこられました歴史ある図書館、特に先代の河野教授によってより一層の近代化が図られました施設の管理運営を引き継ぎますことは、大変光栄でありますとともに責任の重さを痛

感しております。

ご存知のように、本学図書館は20万冊近い蔵書数とオンラインジャーナルを含めて3800誌に及ぶ雑誌数という膨大な情報量を誇っています。さらに、1994年竣工で閲覧座席数250席と個室10室を有する充実した設備の評価も高く、国内でも有数の医学部図書館とされています。しかしながら、大幅な予算削減や情報の電子化といった押し寄せる大きな波、そして新設された看護学部や関西大学・大阪薬科大学との三大学医工薬連環といった本学独自の事情も加わり、多くの解決すべき問題に直面しているのも事実です。また、学生や教職員だけではなく、地域医師会、仁泉会、そして関連病院からの利用も増加傾向にあり、その状況にも対処していかなければなりません。さらに、数年来の懸案事項である、市民あるいは患者さまとご家族に向けた図書室の開設要望に大学として応えるのも今後の課題です。

図書館の充実度は大学の将来を左右すると言っても過言ではありません。大学を支えるのは人、人を育てるのに大きく貢献するのが図書館であります。大学人としての有為な人材育成のために、医学部・看護学部の学生には一般教養や基礎的医学知識を、教職員には最新の基礎的・臨床的情報などを中心に、いつでも学内のどこからでも必要な情報が利便性良く入手できるようにしていかなければなりません。今後、情報の電子化がさらに進む中、図書館機能の充実がますます重要になってきます。将来的には、図書情報だけではなく医療情報も含めてあらゆる大学関連情報の電子化が予想され、図書館も含めて大学組織のあり方も変わってくるかも知れません。これらの時代の変遷に適切に対処するために、引き続き図書館将来計画検討委員会によって検討していきたいと思っています。

教職員各位、学生諸君のご理解とご協力をお願い申し上げます。

略歴

1954年1月12日生
1979年3月 大阪医科大学 卒業
1985年4月 大阪医科大学助手
1985年7月 米国モンテフィオーレ病院へ留学のため休職
1986年8月 大阪医科大学助手（復職）
1989年2月 大阪医科大学講師
1991年2月 大阪府三島救命救急センター医長
1994年4月 大阪医科大学講師
2000年4月 大阪医科大学教授



受賞等について

第44回 日本成人病（生活習慣病）学会 優秀演題賞受賞

予防・社会医学講座 衛生学・公衆衛生学教室 助教 山鳥 恵美先生

平成22年1月9日（土）～10日（日）に、東京都・都市センターホテルにて開催されました第44回日本成人病（生活習慣病）学会において、優秀演題賞を受賞されました。

演題：『メタボリックシンドローム対策の各種判定基準による選出状況の比較検討』



「つくりまし展賞」受賞

特別企画「知恵をしぼってつくりまし展」は、日常の看護ケアを通じて看護者の発想で生み出され、さらにさまざまな工夫を凝らしたり、あるいは改善されたりしている用具を募集し、表彰しようとするものです。
(社団法人大阪府看護協会)

～看護研究学会 特別企画

「知恵をしぼってつくりまし展」受賞報告～



今回、大阪府看護協会「看護研究学会」において、「知恵をしぼってつくりまし展」というアイデア作品展示の特別企画があり、肩用三角巾が「つくりまし展賞」を受賞。大阪府看護協会豊田会長より、授与式で賞状を頂きました。

整形外科62病棟からは、肩用三角巾、車椅子の足拳上板、体温計ホルダー、ギプス患者の足を挙上する足台の4点を出展しました。62病棟では、疾患により日常生活に支障を来す患者様が多く、少しでもADLの拡大と充実が図れるように、様々な物品を工夫して作成し活用しています。

今回受賞した肩用三角巾は、肩の術後に、肩の固定と保護を目的に使用しています。以前は、普通の三角巾を使用していましたが、肩の固定力が弱い状況にありました。医師より、固定を強化する方法はないかと依頼があり、リハビリテーションとの連携を図り、試行錯誤を繰り返しながら、洋裁の得意な繁田補助員の協力を得て作成し、現在の肩用三角巾が完成しました。患者様からの評判もよく「普通のより、肩用三角巾の方が固定感がしっかりしている」という声を多く頂き、現在も自信を持って患者様に提供しています。学会では、「商品化してはどうか」との意見も頂き、現在医療機器メーカーと検討中です。



患者様の機能回復、社会復帰に向けて、看護用具を工夫し作り出すことで、私達のめざす患者中心の看護が提供できるんだと感じたよい機会となりました。日々の看護の中で「気づき」の視点を大切に、今後も患者様へよりよい看護が提供できるよう、チーム医療を充実させ頑張っていきたいと思えます。

62病棟

第4回（平成21年度）伊藤奨学基金授与式

日 時：平成22年 2月 8日（月）午前10時～

場 所：本館図書館棟 1階 学長室

平成21年度 第4学年 前田 英紀

平成21年度 第4学年 宮野 亮

平成21年度 第5学年 鈴木 達也



～伊藤奨学基金の故伊藤龍三様ご遺族代表の伊藤民子様よりお手紙をいただきました～

（平成21年12月28日）

今年もあと3日になりました。主人が逝って早や5年が経ち月日の経つ速さに焦りを感じます。健康と思っておりました主人に“癌”の診断が突然下されてからは、ぐちではなく自分の育った環境（戦争で十分な教育、食糧もなく頑張ってきた）の中、大学のお陰で悔いのない人生を送れたことを誇りとして、同じように苦しみながら勉学に励む後輩に小さな援助をと言いつつ残して逝きました。出来れば更なる援助を私に続けてほしい…との気持ちがあったようですが世界の経済状況が急変いたし身障手帳保持者の私の生活のことを考えますと主人の気持ち通りにできず申し訳ありません。

出来る範囲内で私が生きている間に少しずつ意思を継いでいきたいと考えております。どうぞご理解くださいませ。

伊藤奨学基金は、故伊藤龍三様（本学第Ⅰ期生）の遺贈のご意思により、学業・人物ともに優秀かつ健康であって、経済的理由により修学困難な学生に財政支援を行なうことを目的として設けられたものです。

第5回（平成21年度）鉤奨学基金授与式

日 時：平成22年 2月17日（水）午後0時30分～

場 所：本館図書館棟 1階 学長室

『鉤奨学基金研究助成賞』

予防・社会医学講座

衛生学・公衆衛生学Ⅰ・Ⅱ教室

助 教 山鳥 江美

『鉤奨学基金学術奨励賞』

平成21年度 第1学年 水野 実里

平成21年度 第5学年 村山 結美



研修医が選ぶ平成21年度の「ベスト研修医賞」

平成21年度研修医が選ぶ「ベスト研修医」として浅石 健 研修医が選ばれました。これは「二年目の研修医のうち基本的な診療能力（態度、技能、知識）や医療人として必要な基本姿勢・態度に優れ、代表として最もふさわしいと思う人物」を研修医が投票により決定したものです。浅石研修医には3月31日に挙行了した研修修了式において花房病院長より賞状と記念品が贈呈されました。



■主な行事日程(平成22年6月～8月)

6月1日(火)	創立記念日	21日(水)	医学部教授会・医学研究科委員会
2日(水)	医学部教授会・医学研究科委員会 診療科長会		看護専門学校夏期休業(～8月31日)
9日(水)	看護学部教授会 医学会春季学術講演会	25日(日)	医学部オープンキャンパス(第1回)
15日(火)	理事会	26日(月)	大学協議会
16日(水)	医学部教授会・医学研究科委員会	28日(水)	病院運営会議
19日(土)	第3回市民公開講座	8月1日(日)	本学主催進学ガイダンス(東京・池袋サンシャインシティ文化会館)
20日(日)	看護学部オープンキャンパス(第2回)	4日(水)	診療科長会
23日(水)	病院運営会議	8日(日)	医学部オープンキャンパス(第2回)
28日(月)	大学協議会	9日(月)	看護学部夏期休業(～9月30日)
7月7日(水)	医学部教授会・医学研究科委員会 診療科長会	10日(火)	理事会
13日(火)	理事会	22日(日)	看護学部オープンキャンパス(第4回)
14日(水)	看護学部教授会	25日(水)	病院運営会議
17日(土)	医学部夏期休業(～8月29日)	27日(金)	教授懇親会
19日(月)	看護学部オープンキャンパス(第3回)		

平成21年度 第Ⅲ回 学位記授与式

日 時： 平成22年3月24日（水） 午後3時～
 場 所： 別館1階講堂（階段教室）及び3階大学院多目的講義室
 大学院医学研究科修了者（甲） …… 16名
 論文提出者（乙） …………… 3名



番 号	氏 名	論 文 題 名
甲第847号	大谷 一弘	形質細胞様樹状細胞のケモカインレセプターCCR7依存的、恒常的リンパ節への移住 (CCR7-dependent trafficking of plasmacytoid dendritic cells to lymph nodes under steady-state conditions)
甲第848号	大野 克記	Altered Expression of Sodium Channel Distribution in the Dorsal Root Ganglion after Gradual Elongation of Rat Sciatic Nerves (ラット坐骨神経緩徐延長による後根神経節ナトリウムチャネルの発現変化)
甲第849号	柿本 一城	Significance of chymase-dependent matrix metalloproteinase-9 activation on indomethacin-induced small intestinal damages in rats (ラットNSAIDs起因性小腸潰瘍におけるキマーゼ依存性マトリックスメタロプロテアーゼ9活性の意義)
甲第850号	片嶋 隆	Enhanced expression of the S100A8/A9 complex in acute myocardial infarction patients (急性心筋梗塞患者におけるS100A8/A9複合体の発現亢進)
甲第851号	川西 泰徳	Effect of Left Ventricular Dyssynchrony on Plasma B-type Natriuretic Peptide Levels in Patients With Long-Term Right Ventricular Apical Pacing (長期右室心尖部ペーシング患者における左室収縮非同期性の血漿BNP値に対する影響)
甲第852号	河野 令	地域高齢者の咬合力と介護予防因子との関連について (Relationship between occlusal force and preventive factors for disability among community-dwelling elderly persons)
甲第853号	柴崎早枝子	Expression of Toll-like Receptors in the Pancreas of Recent-onset Fulminant Type 1 Diabetes (発症直後の劇症1型糖尿病膵組織におけるToll-like Receptorsの発現)

番 号	氏 名	論 文 題 名
甲第854号	白岩 有桂	Multifunctional Role of His ¹⁵⁹ in the Catalytic Reaction of Serine Palmitoyltransferase (セリンパルミトイル転移酵素の触媒反応におけるHis ¹⁵⁹ の多機能的役割)
甲第855号	田代圭太郎	Chymase inhibitor prevents the nonalcoholic steatohepatitis in hamsters fed a methionine- and choline-deficient diet (メチオニン・コリン欠損食誘発性ハムスター非アルコール性脂肪肝モデルにおけるキマーゼ阻害薬の効果)
甲第856号	常深聡一郎	Proteomics-Based Identification of a Tumor Associated Antigen and its Corresponding Autoantibody in Gastric Cancer (プロテオーム手法による胃癌における癌関連抗原と自己抗体の同定)
甲第857号	能田 貞治	Usefulness of polyethylene glycol solution with dimethylpolysiloxanes for bowel preparation before capsule endoscopy (カプセル内視鏡の前処置におけるジメチルポリシロキサン加ポリエチレングリコール溶液の有用性)
甲第858号	納田 真也	Adjacent vertebral body fracture following vertebroplasty with polymethylmethacrylate or calcium phosphate cement - Biomechanical evaluation of the cadaveric spine - (PMMAあるいはCPCを用いた椎体形成術後の隣接椎体骨折 - 屍体標本による生体力学的検討-)
甲第859号	羽森 貫	モノクロタリン誘発肺高血圧ラットに対するエプレレノンの効果 (Effect of eplerenone on monocrotaline-induced pulmonary hypertension in rat)
甲第860号	福面 新弥	Development of fibrosis in nonalcoholic steatosis through combination of a synthetic diet rich in disaccharide and low-dose lipopolysaccharides in the livers of Zucker (fa/fa) rats (Zucker (fa/fa)ラットに二糖類の多い飼料と低用量のリポポリサッカライドを投与すると肝臓に非アルコール性脂肪変性ととも線維化が進行する)
甲第861号	福本 雅格	Involvement of Angiotensin II-Dependent Vascular Endothelial Growth Factor Gene Expression via NADPH Oxidase in the Retina in a Type 2 Diabetic Rat Model (2型糖尿病ラットモデルの網膜におけるNADPHオキシダーゼを介したアンジオテンシンII依存性の血管内皮増殖因子遺伝子発現の関与)
甲第862号	二井 理恵	Olmесartan Ameliorates Myocardial Function Independent of Blood Pressure Control in Patients with Mild-to-Moderate Hypertension (オルメサルタンは軽症ないし中等症の高血圧患者における心機能を血圧コントロールと関係なく改善する)

番 号	氏 名	論 文 題 名
乙第1076号	枝川 豪	胃GIST (gastrointestinal stromal tumor) の臨床病理学的研究 (A clinicopathological study of gastrointestinal stromal tumors in the stomach)
乙第1077号	佐々木 浩	Difference between genomic actions of estrogen versus raloxifene in human ovarian cancer cell lines (卵巣癌細胞株におけるエストロゲンとラロキシフェンの遺伝子転写調節作用の違い)
乙第1078号	岡部 太一	Rabbit plaque models closely resembling lesions in human coronary artery disease (ヒト冠動脈病巣に極めて類似したウサギプラークモデルの作成)

平成22年度科学研究費補助金交付内定

平成22年度科学研究費補助金交付内定について

平成21年11月に文部科学省ならびに日本学術振興会へ応募した178件の新規研究計画に対し新規27件、継続52件の合計79件、総額99,450千円の内定がありました。(平成22年4月5日現在)

研究種目	新規応募件数	交付内定件数		
		新規	継続	合計
新学術領域研究(研究領域提案型)(公募研究)	1	0	0	0
基盤研究(A)	0	0	1	1
基盤研究(B)	6	1	1	2
基盤研究(C)	94	13	34	47
挑戦的萌芽研究	24	3	0	3
若手研究(A)	1	0	0	0
若手研究(B)	52	10	15	25
研究活動スタート支援	0	0	1	1
合計	178	27	52	79

(注) 研究活動スタート支援(旧:若手研究(スタートアップ))については、平成22年度公募中のため継続の課題のみ記載内定時点で退職等により不在の研究代表者の所属・職名は応募時のもの

■基盤研究(A) 一般

(単位:千円)

研究課題名	所属・職名	研究代表者名	継続	22年度	23年度	24年度	25年度
医療事故防止のためのバーチャリアリティシミュレーター及び教育プログラムの開発	看護学科教授	林 優子	*	12,100	0	0	0

■基盤研究(B) 一般

[研究課題番号順]

(単位:千円)

研究課題名	所属・職名	研究代表者名	継続	22年度	23年度	24年度	25年度
Tregバンク(CD28SA+幹細胞共培養)免疫寛容+MF1導入:移植腎永久生着	泌尿器科学准教授	東 治人	*	2,600	2,900	2,600	2,200
遺伝子破壊メダカとニワトリBリンパ球細胞を使用した化学物質の複合影響評価	衛生学・公衆衛生学教授	河野 公一		1,200	1,300	1,300	0

■基盤研究(C) 一般

[研究課題番号順]

(単位:千円)

研究課題名	所属・職名	研究代表者名	継続	22年度	23年度	24年度	25年度
メタボリックシンドロームにおける低酸素応答による酸化プロテオミクス	化学・生体分子学講師(准)	境 晶子	*	900	0	0	0
発達障害児における不器用の神経基盤の解明:脳機能画像による疾患別の量的・質的検討	小児科学非常勤医師	柏木 充	*	600	0	0	0
網羅的遺伝子発現解析を用いたバクテリアの増殖再開メカニズムの解明	物理学講師	牧 泰史	*	900	0	0	0
大腸菌100Sリボソームの構造と形成および解消機構の解明	物理学准教授	吉田 秀司	*	1,100	0	0	0
メタボリックシンドローム合併症におけるキマーゼの病態生理学的役割	薬理学准教授	高井 真司	*	1,100	0	0	0
間質性肺炎合併皮膚筋炎における疾患関連マーカー蛋白の定量プロテオミクスによる探索	内科学I講師(准)	武内 徹	*	700	0	0	0
死因不詳の突然死症例におけるカルシウム依存性情報伝達物質遺伝子変異解析	法医学教授	鈴木 廣一	*	600	0	0	0
エンテロウイルス感染マーカーとしてのMDA-5発現に関する研究	内科学講座専門教授	浮村 聡	*	300	0	0	0
免疫抑制せず、オーダーメイドに移植拒絶反応を阻害する薬剤の開発	研究機構専門教授	吉田龍太郎	*	800	0	0	0
中性子捕捉療法及び光線力学的治療双方に利用可能な新規硼素化ポルフィリンの有用性	脳神経外科学助教	川端 信司	*	700	0	0	0

平成22年度科学研究費補助金交付内定

研究課題名	所属・職名	研究代表者名	継続	22年度	23年度	24年度	25年度
5-ALAと自家蛍光の二重蛍光スペクトル解析による高精度脳腫瘍同定方法の開発	脳神経外科学 教授	黒岩 敏彦	*	1,000	0	0	0
ヒト軟骨系腫瘍におけるGABAシステムを用いた新たな鑑別診断法と治療法の確立	解剖学 講師	神原 清人	*	1,000	0	0	0
花粉曝露室を用いたスギ花粉症誘発の病態解明	学長	竹中 洋	*	200	0	0	0
糖尿病女性が安全に安心して妊娠出産育児に臨めるためのケアプログラムの開発と評価	看護学 教授	田中 克子	*	1,400	1,300	0	0
ピリドキサル・キノン酵素反応の多元的エネルギー解析	生化学 教授	林 秀行	*	1,100	1,300	0	0
酵素の立体構造に基づくスフィンゴ脂質代謝制御の分子機構に関する研究	生化学 講師	生城 浩子	*	1,200	1,200	0	0
ミトコンドリアから運搬されサイトゾル含硫小分子に使われる硫黄の運搬経路の解明	生化学 講師	中井 由実	*	1,200	800	0	0
性ホルモンによる卵管上皮線毛運動の調節機構の研究	生理学 准教授	中張 隆司	*	900	900	0	0
人工血管管腔狭窄における機序の解明とキマーゼ阻害薬を中心とした治療法の探索	薬理学 講師	金 徳男	*	1,300	1,400	0	0
膵臓癌細胞由来膜/核内タンパク質-自己抗体結合体を標的にした膵臓癌特異抗原の検索	一般・消化器外科学 講師(准)	宮本 好晴	*	1,100	1,000	0	0
モデルマウスを用いた劇症1型糖尿病治療法の開発	内科学I 教授	花房 俊昭	*	900	900	0	0
劇症1型糖尿病患者血清の蛋白質間相互作用解析を用いた新規インスリン様分子の同定	内科学I 講師(准)	寺前 純吾	*	800	800	0	0
母乳分泌における脂質濃度調節機構の解析	小児科学 講師(准)	瀧谷 公隆	*	800	800	0	0
可視光の皮膚アンチエイジング効果に関する基礎的研究～DNA修復能に着目して	皮膚科学 教授	森脇 真一	*	1,000	900	0	0
好中球エラスターゼ阻害剤による致死的放射線肺障害の防止に関する実験的研究	放射線医学 専門教授	猪俣 泰典	*	700	500	0	0
STABI・VEGF-CsiRNAとデコイベクターによる乳癌リンパ節転移阻止	解剖学 准教授	柴田 雅朗	*	800	900	0	0
外科医教育のためのe-learning用内視鏡外科教材Websurgの充実と発展	一般・消化器外科学 教授	谷川 允彦	*	500	500	0	0
ラットでの大動脈弁狭窄症術後肥大心筋の治療過程の研究：エプレレノン投与は有用か？	胸部外科学 講師(准)	小澤 英樹	*	800	700	0	0
局所的GABAシステム仮説に立脚した三叉神経痛発生メカニズムへのアプローチ	解剖学 講師(准)	早崎 華	*	1,000	1,200	0	0
顆粒膜細胞におけるミトコンドリアDNA欠損が卵発育障害をおこすメカニズムの検討	産婦人科学 講師	山下 能毅	*	900	1,000	0	0
子宮内膜癌に対するMPAの分子標的治療薬としての機能解析とその制御の検討	産婦人科学 講師	金村 昌徳	*	1,000	800	0	0
癌幹細胞をターゲットとした卵巣癌の白金製剤耐性機構の解明とその制御	産婦人科学 講師(准)	田辺 晃子	*	1,000	900	0	0
糖尿病網膜症の硝子体中コラーゲンに対する自己免疫反応と病態との関連	眼科学 教授	池田 恒彦	*	1,100	1,100	0	0
顔面外傷後の神経因性疼痛に対するSSRI治療効果メカニズムの解明	形成外科学 准教授	大場 創介	*	1,200	700	0	0
電気分解法を用いた医療廃液処理技術の開発と評価	微生物学 准教授	中野 隆史	*	1,100	800	500	0
蝸牛内直流電位の調節に対する細胞間タイト結合(クロロデン)の役割	生理学 教授	窪田 隆裕	*	2,200	700	600	0
心筋カルシウム制御タンパク質及びイオンチャネルにおける糖鎖機能の解明	薬理学 教授	朝日 通雄	*	1,900	1,100	500	0
トランスサイレチン起因アミロイド凝集形成機序としてのラジカル反応の分子機構解明	臨床検査医学 准教授	中西 豊文	*	1,900	900	800	0
統合失調症と感情障害の中間型に対する疫学調査	神経精神医学 准教授	康 純	*	1,000	700	1,700	0
分泌型CEACAM-1はマウス移植乳癌の血管とリンパ管新生を促進する	解剖学 講師	伊藤 裕子	*	1,000	1,500	500	0

平成22年度科学研究費補助金交付内定

研究課題名	所属・職名	研究代表者名	継続	22年度	23年度	24年度	25年度
アクロメリン酸誘導体を用いた神経障害性疼痛治療薬の開発と痛みの定量化	麻酔科学 教授	南 敏明		1,300	500	1,600	0
癌幹細胞をターゲットとした子宮内膜癌の浸潤・転移制御と分子標的治療への応用	産婦人科学 講師	寺井 義人		1,500	1,000	900	0
蝸牛内リンパ腔電位の調節における辺縁細胞Ca ²⁺ 透過性チャネルの役割	生理学 准教授	森 禎章		1,000	700	700	900
頭頸部扁平上皮癌におけるプロスタグランジン受容体の解析とその臨床的意義	耳鼻咽喉科学 教授	河田 了		1,600	800	1,000	0
緑内障モデルにおけるP2X7受容体活性化と網膜神経節細胞障害の関連性	眼科学 講師	杉山 哲也		1,300	1,000	1,000	0
活性化グリア細胞を介した網膜傷害に対するスタチンの抑制効果の検討	眼科学 診療准教授	奥 英弘		1,200	1,300	900	0
ラットを用いた肺高血圧に対する新しい薬物治療アプローチ	胸部外科学 准教授	根本慎太郎		1,100	1,000	1,000	0

■挑戦的萌芽研究

[研究課題番号順]

(単位：千円)

研究課題名	所属・職名	研究代表者名	継続	22年度	23年度	24年度	25年度
癌細胞選択的破壊による革新的浸潤癌膀胱温存治療「硼素膀胱局所動注中性子捕捉療法」	泌尿器科学 准教授	東 治人		1,400	1,400	0	0
高分子ミセルを用いた卵巣癌の癌幹細胞に対する標的治療の開発	産婦人科学 教授	大道 正英		1,600	700	600	0
臓器移植を受ける患者及び家族に対する倫理的関わりモデルの開発	看護学 教授	林 優子		1,100	700	1,100	0

■若手研究 (B)

[研究課題番号順]

(単位：千円)

研究課題名	所属・職名	研究代表者名	継続	22年度	23年度	24年度	25年度
移植拒絶反応：自然免疫系細胞で誘導される、移植抗原に対する新規受容体に関する研究	生理学 講師	山路 純子	*	900	0	0	0
難治性急性前骨髄性白血病における新規レチノイド化合物の分化誘導機構の解明	小児科学 助教	井上 彰子	*	800	0	0	0
脳シアロ化短半減期エリスロポイエチン誘導体を用いた中枢神経再生治療法の開発	脳神経外科学 非常勤医師	三木 義仁	*	500	500	0	0
肩インピンジメント：肩甲上腕リズムの生体力学的解析に基づく新しい治療法の開発	整形外科 助教	三幡 輝久	*	400	0	0	0
F1-ATPaseの回転に必要な不可欠な回転子領域の決定	物理学 助教	古池 晶	*	500	0	0	0
プロテオミクスを用いた大腸癌特異抗原結合自己抗体同定による新規診断マーカーの開発	一般・消化器外科学 助教	藤田 能久	*	800	0	0	0
消化器腫瘍におけるmicroRNAの発現異常と発癌への関与についての検討	一般・消化器外科学 非常勤医師	高城 武嗣	*	1,400	0	0	0
大動脈術後の脳障害関連遺伝子スクリーニングと指標となる脳障害血清タンパクの検索	胸部外科学 助教	三重野繁敏	*	1,500	0	0	0
小胞体ストレス促進を利用した進行性腎臓治療	泌尿器科学 助教	稲元 輝生	*	1,100	700	0	0
プロモーターマイクロアレイを用いたボテカンの新たな分子標的作用の解析	産婦人科学 助教	佐々木 浩	*	1,000	0	0	0
スギ花粉抗原特異的IgE産生に関与する細胞・分子の同定	耳鼻咽喉科学 非常勤医師	金沢 敦子	*	1,200	0	0	0
蝸牛虚血再灌流時における内リンパパルシウムイオンの役割	耳鼻咽喉科学 助教	森 京子	*	800	0	0	0
マイクロRNAを指標とした術後慢性疼痛の解明	形成外科学 講師	中井 國博	*	1,800	0	0	0
頭頸部癌へのBNCTにトランスフェリン結合型硼素化合物運搬体を応用した基礎研究	口腔外科学 助教	伊藤 雄一	*	1,500	0	0	0

平成22年度科学研究費補助金交付内定 研究助成金等

研究課題名	所属・職名	研究代表者名	継続	22年度	23年度	24年度	25年度
口腔癌患者における硼素中性子捕捉療法(BNCT)の臨床効果に関する研究	口腔外科学 助教	木村 吉宏	*	1,100	0	0	0
カルシウム測定系を利用した葉緑体からの新規細胞内情報伝達経路の解明	生物学 講師	原田 明子		1,400	900	900	0
遺伝的に異なる近交系メダカ2系統を用いた嗅覚の適応進化メカニズムの解析	生物学 助教	橋口 康之		1,700	1,500	0	0
高齢者の筋肉量に関する疫学的研究—要介護移行に関連するカットオフ値—	衛生学・公衆衛生学 講師	谷本 芳美		1,700	300	0	0
悪性脳腫瘍術中蛍光診断の蛍光メカニズム解析と神経膠腫幹細胞への光線力学療法への応用	脳神経外科学 助教	池田 直康		1,300	1,600	0	0
脳腫瘍治療後の病態解析における18F-BPA-PETの有用性に関する研究	脳神経外科学 助教	嶽北 葉子		1,800	1,300	0	0
がん幹細胞をターゲットにした光線力学療法および化学療法の開発	脳神経外科学 非常勤医師	井上 洋人		1,600	1,400	0	0
アロ活性化マクロファージによるアロ移植細胞拒絶機構の解析	泌尿器科学 助教	能見 勇人		800	700	700	700
新しい虚血再灌流動物を用いた、内耳虚血の高圧酸素、エダラボン同時投与の治療効果	耳鼻咽喉科学 助教	乾 崇樹		2,100	1,000	0	0
皮内での腫瘍細胞の増殖と拒絶を制御する免疫細胞と因子による新しい癌根治療法の開発	形成外科学 非常勤医師	井畑 峰紀		1,100	1,000	900	0
テネイシンWの頭蓋冠縫合における働き	形成外科学 助教	三倉 文子		1,000	1,200	0	0

■研究活動スタート支援

(単位：千円)

研究課題名	所属・職名	研究代表者名	継続	22年度	23年度	24年度	25年度
PETを用いた難治性中枢神経腫瘍に対するホウ素中性子捕捉療法の新規適応の可能性	脳神経外科学 非常勤医師	宮田 至朗	*	950	0	0	0

研究助成金等について

■平成22年度 多施設共同臨床研究助成金 [財団法人日本ワックスマン財団]

研究課題名	氏名(所属名・職名)	助成金額
局在浸潤性膀胱癌に対する放射線療法併用バルーン塞栓動脈内抗癌剤投与(BOAI)療法の有用性に関する多施設共同比較試験 Multicenter study : Effect of combined therapy using balloon-occluded arterial infusion of anticancer agent with concurrent radiation for locally invasive bladder cancer.	東 治人(泌尿器科学・准教授)	50万円

■平成21年度 研究助成金(共同研究) [財団法人鈴木泌尿器医学振興財団]

研究課題名	氏名(所属名・職名)	助成金額
浸潤性腸脱癌に対する多施設共同臨床比較試験：バルーン塞栓カテーテルを用いた抗癌剤動脈内注入、および、放射線照射による腸脱温存治療の治療効果	東 治人(泌尿器科学・准教授)	50万円

■平成21年度 ガン研究助成奨励金 [財団法人大阪対ガン協会]

研究課題名	氏名(所属名・職名)	助成金額
小胞体ストレス促進を利用した腎癌根絶の試み	稲元 輝生(泌尿器科学・助教)	30万円

○研究協力課から処理(申請・機関承認等)しました公募助成金他のうち、内定・採択を確認できたものを掲載しています。
研究協力課へ掲載依頼のため情報提供下さったものを含めています。

三大学医工薬連環科学シンポジウム

関西大学・大阪医科大学・大阪薬科大学 第2回 三大学医工薬連環科学シンポジウムが開催されました

文部科学省戦略的大学連携支援プログラムの一環として、下記の通りシンポジウムが開催されました。
(併催 大阪医科大学・関西大学 医工連携シンポジウム (第5回))

日 時：平成22年1月28日 (木) 14:30~17:00

場 所：関西大学千里山キャンパス 関西大学100周年記念会館ホール1

プログラム：

- 14:30 開会挨拶 関西大学 医工薬連携研究センター長 大場謙吉 教授
- 14:35 「関西大学における医工薬連携の取組と将来の展望」 関西大学 大場謙吉 教授
- 14:55 「大阪医科大学における医工薬連携の取組と将来の展望」 大阪医科大学 黒岩敏彦 教授
- 15:15 「薬学からみた医工薬連携の展開：いかに貢献し、何を期待するか」
大阪薬科大学 梶本哲也 特任教授
- 15:35 「『三大学医工薬連環科学』教育システムの取組について」 関西大学 土戸哲明 教授
- 15:55 招待講演「広域連携による健康・医療・福祉分野の高度人材育成」
一般社団法人臨床医工情報学コンソーシアム関西副会長
大阪大学臨床医工学融合研究教育センター長
大学院医学系研究科 倉智嘉久 教授
- 16:55 閉会挨拶 三大学医工薬連環科学教育研究機構長 土戸哲明 教授
- 17:00 終了



大場謙吉教授 開会の挨拶



大場謙吉教授



黒岩敏彦教授



梶本哲也教授



土戸哲明教授



倉智嘉久教授

平成22年度事業計画

I. 背景

1. 世界の背景

平成20年9月のリーマン・ショックにより世界的な経済不安が起こった。その後、世界大恐慌の教訓を生かし、各国の努力により回復傾向に向かうかに見えたが、平成21年10月のドバイ・ショックを契機に、各国の過剰投資に対する警戒感が強まっている。このような経済状態にあって、ここ暫く先進諸国は財政の見直しを続けるものと思われる。

2. 日本の背景

我が国の人口は2045年には1億人を割り、2055年には8千万人台になると推計されている。我が国は超少子化・高齢化社会を迎え、組織の集約強化を急がなければならない状況であったが、世界的な経済不安の影響を受けて、過剰ともいえる組織の集約が図らずも一気に進みだし、一時的な雇用不安を招いている。おりしも政権交代が起こり、組織の集約強化が加速している。特に、財政面の集約強化は本邦の教育研究面に負の影響を与えている。

経済面では、株価が下落し、国力を反映しない相対的な対ドル円高に引き続いて、対ユーロ円高も懸念され、しばらくの間、経済不安は続くものと考えられる。

18歳人口は現在120万人であるが、2030年頃には100万人を切り、2055年頃には60万人程度になると推計されている（国立社会保障・人口問題研究所）。現時点では、受験生の数の減少は一旦底を打っているが、その後再び徐々に減少する傾向にある。そのため、優秀な受験生は学納金のより安い大学、あるいはブランドイメージの高い大学へ進学することになるものと考えられる。

医療においては、医師不足などによるいわゆる「医療崩壊」に関する国民の要望に応えるため、保険点数が見直されている。技術料の引上げはあるものの、同時に薬価は引下げられるため、全体としては大きな引上げにはならないまま、保険料はしばらく推移するものと思われる。また、人口減少に伴って、人口当たりの医師数が増加し、医師間の競争が起こる可能性があり、より質の高い医師を養成することが求められる。

3. 本法人の背景

本法人は、「教育基本法及び学校教育法に従い、医科大学その他の教育施設を設置し、国際的視野に立った教育研究及び良質な医療の実践を通して、人類の福祉と文化の発展に貢献する人材を育成すること」を目的として設立された。平成16年には政令により都市再生緊急整備地域の指定を受け、平成13年から掲げた中期5カ年計画「CS21」を平成16年の中間時点で見直しながら事業を推進した。即ち、教育・研究・医療に関して医学教育用校舎建築、看護基礎教育用校舎建築、病棟建築、旧病棟改装、入試広報の充実、R & I 格付け「A+」の取得、大学院充実化の着手、健康科学クリニック設置ならびに看護学部設置などに多大な投資を行い、総額は百数十億円にのぼったが、これにより、法人が設置する医科大学や附属病院はその内容の充実と共にブランド力が上昇し、外部からの期待は更に高まっている。

他方で、この投資により現預金は著しく減少し、負債額や減価償却額が増大した。また経済不安により当初予定していた利息や寄付等の収入が著しく減少している。現在法人の抱える問題は山積しており、①財政の盤石化、②教育研究機関としての大学ブランド力の維持、③大学院の充実（医学研究科博士課程の定員充足、医学系の研究科前期後期課程設置と看護学研究科前期後期課程の設

平成22年度 事業計画及び予算の概要

置)、④教育研究体制の再整備、⑤附属病院の新耐震基準化(新病棟建築)、⑥校舎等の新耐震基準化(第2総合研究棟建築)、⑦健康科学クリニックの安定化、⑧事務体制の強化、⑨保育施設の充実、⑩LDセンターの安定化、などがある。

II. 長期計画

「国際的視野に立った教育研究と良質な医療の実践を通して、人類の福祉と文化の発展に寄与する人材を育成する」という本法人の理念に基づき、CS21において、人口比が安定する2050年頃を見込みに長期展望しているが、この本邦の状況に大きな変化はないものと考えられる。引き続き、本部キャンパスが位置する高槻市中心市街地内にできる限り校地を集約し、本法人の目的を達成するため組織集約強化を図る。

しかしながら、CS21では、そこに至る過程で起こる組織の集約や強化の実現時期を予測することを避けてきた。奇しくも、一昨年に世界的な経済不安が訪れ、組織の集約や強化が加速的に進んでいるが、前の計画立案段階では、これほど急速な集約強化が進むと具体的に予測していなかった。

今回の長期計画見直しに当たっても、前回同様に具体的な実現年度を付さずに示す。

1. 校地

1) 本部キャンパス

本部キャンパスは、全面積を保持する。都市再生緊急整備計画の壁面後退を実施し、後退部分を敷地内緑地とすることによって、校地面積を保持する。これによって資産価値の高い良質な校地を確保する。

2) 本部北キャンパス

看護学部キャンパスとして保持するが、北側の緑地帯と駐車場の一部については有効活用する。

3) 北西キャンパス

本部キャンパスの整備に必要な倉庫等として避難的に活用し、最終的には有効活用する。

4) 西キャンパス

八丁畷キャンパスと府営住宅地との等価交換により、西キャンパスを拡張し、病棟の建て替え等に必要施設を建築するなどし、避難的に活用する。本部キャンパスの駐車スペースは将来的に平面駐車場となるので、立体駐車場を作るとすれば、西キャンパスに地を求める必要があるかもしれない。また、体育館用地としての利用の可能性もある。

5) さわらぎキャンパス

京都大学農場跡地(安満遺跡)の緑地公園化計画の進捗にもよるが、さわらぎキャンパスの運動場機能を同公園内に確保する可能性を探る。

6) 城北キャンパス

しばらくの間、体育施設と駐車場として活用する。

7) 八丁畷キャンパス

都市計画道路にかかっており、南面は大きく後退しなければならない、高槻市が計画中の緑地公園の入口に接することになる。そのため、本法人にとって利用価値は低い。既に看護専門学校校舎と看護師寮を取り壊し、府営住宅跡地との等価交換の交渉が大阪府との間で成立している。

2. 病院建物・校舎等

1) 病院建物

病院建物について、新耐震基準で建築された建物は7号館だけで、他はしかるべき時期に建て

替えなければならない。建て替えに際しては、本部キャンパス内での次々期の建て替えも視野に入れて、干渉地を配置できるように設計しなければならない。基本的には外来診療棟、中央棟、病棟の三棟で形成するものとし、大学附属病院に求められる機能を効率良く配置する。

2) 校舎等

校舎等について、本部および本部北キャンパス内で次々期の建て替えも視野に入れて、遊休地を配置できるように設計しなければならない。実験動物センター・剖検施設・RI施設・特定生物安全実験施設を含む第2総合研究棟および学生講義実習棟が次期の建築候補となる。

3. 高等医学教育の一層の強化

教育の直接の受益者は学生であるが、医療従事者を育成して社会に貢献すること、即ち最終の受益者は医療を必要とする不特定多数の人々であることを再確認し、学生が卒業した後のことを十分に配慮し適切な教育体制を維持する。

1) 大学

医学部、看護学部のブランドイメージを維持・強化し、優秀な学生を確保する。看護学部の新設に伴い、医学部と看護学部の共通部分を集約して、効率的な大学教育の場を形成する。

2) 大学院

大学院は法人の目的に沿って、医学研究科に加えて看護学研究科を設置し、本法人が設置する大阪医科大学の位置に見合った規模と内容に集約強化して、大学院としてのブランドイメージの形成維持に努める。

4. 財政の盤石化

前回の学校法人会計基準の見直しによっても、基本金や消費収支の扱いは大きく変化がなかったことから、暫くの間、学校法人会計基準に従った盤石化を図る必要がある。その数値目標として帰属収支差額比率で5%の黒字を確保し消費収支で均衡を保つとともに、将来の大型の設備投資に備えて設備拡充資金引当資産を50億円確保することに努める。この数値目標の達成のため大規模な設備投資の抑制及び予算管理におけるPDCAサイクルの徹底を図ると共に人件費の総額抑制、経費の削減を継続して実施する。さらに、資金確保の方法として遊休土地の有効活用も視野に入れる。最終的には消費収支差額の黒字化を目指す。

1) 現預金

現預金は、少なくとも法人全体の3カ月分の支払いに相当する額を確保する必要がある。

2) 土地

校地は資産価値が比較的安定している中心市街地内にできる限り集約し、中心市街地外の校地は運用あるいは売却の対象とするほか、長期借地による校地確保も念頭に置く。

3) 知財

本法人の規模では特許を譲渡して現金化するシステムの構築は難しい。そこで、知財は特許等にこだわることなく、現金化可能なものを見出して、重点的に整理する。

4) 募金

本邦の募金に対する一般の理解は変化しつつある。そこで、本法人の目的を周知し、それを達成するために必要な基金を安定的に確保するよう時節に応じた募金体制を組み、適切な広報を行いながら募金活動を続ける。株式会社西泉をはじめとする企業からの募金の獲得に力を注ぐ。

5) 外部資金の導入

外部資金を多様化し、各種研究費のみならず、必要な事業に特化して補助金等を獲得する。

平成22年度 事業計画及び予算の概要

補助金獲得を目的とした事業は行わない。

6) 資産運用

ペイオフ対策を見直し、国債等の購入など、更に資金の運用を多様化する。

Ⅲ. 中期計画

米ドル社会に端を発した世界的な経済不安が、ユーロ社会を中心に再燃する可能性もある現時点では、大きな投資を伴う中期計画を具体的また子細に立てることは得策とは言えない。次期5カ年は、前の中期計画の達成状況の整理と、大きな投資を伴わない事業（主として改善事業）を行うことによって財政の盤石化を課題とする。

1. 事務組織

- 1) 事務組織の管理体制の強化
- 2) 事務職員の給与体系の変更

2. 財政

- 1) 帰属収支差額比率で2%の黒字を確保
- 2) 次年度繰越支払資金の確保と設備拡充資金の積み増し
- 3) 新規の大型投資の抑制
- 4) 予算管理におけるPDCAサイクルの徹底
- 5) 人件費の総額抑制
- 6) 委託費等経費の削減…人件費を除き全体で対前年比5%削減（含む全委託費）
- 7) 財産目録の管理方法の確立
- 8) 細分部署別収支の計算方法の確立
- 9) ペイオフ対策の確立
- 10) 公的外部資金獲得2億円

3. 企画

本法人のマスタープランの作成

- ①都市再生緊急整備の修正案の作成
- ②中心市街地活性化計画における本学の位置付けの決定
- ③病棟、校舎等の耐震化計画（案）の決定
- ④新病棟ならびに新総合研究棟建築計画の策定

4. 総務

- 1) 事務組織計画の決定
- 2) 管理職評価制度の実施
- 3) 人事計画の決定
- 4) 人事考課制度の見直し
- 5) 人件費計画の決定
- 6) 人件費全体の見直しで対前年比2%の削減
- 7) 省エネルギー対応策の決定と実施

5. 大学院

- 1) 大学院収支状況の改善
- 2) 大学院将来構想計画の決定

特に、専門性の高い看護師の養成には修士（看護学）の学位を求める傾向にあることから、看護学研究科の設置は重要である。

3) 教員の研究評価の本格実施

6. 大学

1) 教学

(1)教育

[1] 卒前教育

- ①国家試験合格率の改善（新卒常時目標96%）
- ②e-learningの導入
- ③6回生の授業期間の延長
- ④新医学教育制度の導入（病院実習重視と研修医制度からキャリア形成橋渡し）
- ⑤語学教育の充実と英語表記の教科書の採用
- ⑥ネイティブ・スピーカーの医系教師採用
- ⑦看護学部国家試験対策委員会設置
- ⑧教室の再編
- ⑨看護学部就職活動推進室設置
- ⑩看護学部キャリア形成委員会の設置

[2] 大学院教育

- ①他学部修士課程修了者の入学促進による定数充足
- ②実験動物施設などの中央施設の立案
- ③大学院寄附講座の募集・設置
- ④大学院研究機器の整備
- ⑤総合教育センター（仮称）の設置

(2)教育内容等

- ①医学教育制度改革委員会の答申
- ②「コメディカルと作る医療課題」の導入
- ③アドミッションポリシーに基づく新入試制度の導入
- ④医療管理学教室（仮称）の導入
- ⑤総合医療センターの整備：中国や東南アジアへの医療展開

(3)教育実施体制等

- ①教育カリキュラムの改訂及び教育施設の整備
- ②総合教育センター（仮称）による医学教育の一貫性構築

(4)看護学部教育充実

- ①修士課程設置準備室の設置
- ②大学院寄附講座の設置：大学院医療センター準備室
- ③総合教育センター（仮称）の設置
- ④関西大学との単位互換性、医学部との共学、国際交流を行う
- ⑤3つのセンターの調整に基づき、学科会議で具体的に教育研究を実施

(5)研究に関する目標

- ①臨床研究促進のための治験センターを臨床研究支援センターに改組

平成22年度 事業計画及び予算の概要

②がんと循環器に特化した研究チーム体制（センター化）の設置

③動物実験センターの建設

④近隣大学大学院研究施設との連携

⑤大学院寄附講座の設置

(6)その他

①自己点検、評価を公表し、大学運営に反映させるシステムの構築

②評価、改善を通常業務に組み入れたシステムの構築

③大学の知的情報、財務内容及び運営管理等に関する情報のデータベース化を図り、社会の求めに応じた情報を提供

2) 附属病院

(1)質の高い医療の提供

①循環器センター（仮称）構築委員会の設置

②脳卒中センター（仮称）構築委員会の設置

③新病棟建築計画の策定

④施設撤去と跡地整備

⑤災害拠点病院としての機能整備

(2)臨床研究

大学院教員組織創設に伴う助教（准）枠の廃止とレジデントへの移行

(3)質の高い医療従事者の養成

①新医師臨床研修医48名確保

②臨床系大学院の充実とレジデントの期間延長を図る

③卒後臨床研修センターとキャリア形成支援センターの統廃合

7. その他の施設、組織

1) 健康科学クリニック

管理体制、運営内容、人員配置の強化

2) LDセンター

管理体制、運営内容、人員配置の強化

3) 保育施設

施設の建て替え

IV. 本年度事業計画

1. 事務組織

1) 事務組織の管理体制の見直し

①権限と責任の明確化

②事務組織、事務分掌の見直し

2) 事務職員の給与体系の見直し

①業績評価（人事評価）制度の構築

②事務職員の教育研修制度の構築

3) その他

①法人監査室の機能強化

②財務システムのIT有効利用

2. 財政

1) 帰属収支差額で黒字を確保

①基本財務指標：帰属収支差額△2億43百万円（除く予備費） 繰延支払資金37億58百万円

②経費の削減：人件費を除き全体で対前年比5%削減

③医療収支（DPC）の改善

④公的外部資金獲得2億円

⑤全委託費20%削減

2) 次年度繰越支払資金として必要な最少限の資金確保

3) 新規大型投資の抑制

4) 人件費の総額抑制

5) 業務委託契約の検証により委託費等経費を削減

6) 予算管理におけるPDCAサイクルの徹底

7) 細分部署別収支の検討

8) ペイオフ対策の見直し

3. 企画

1) 既に行った都市再生緊急整備計画内容のまとめ

2) 都市再生緊急整備の提案の現状に応じた見直し

3) 中心市街地活性化計画における本学位置付けの検討

4) 病棟の耐震化計画策定の開始

5) 校舎等の耐震化計画策定の開始

4. 総務

1) 事務組織計画の策定

2) 管理職評価制度の策定

3) 人事計画の策定

ローテーション・教育制度等

4) 人件費計画の策定

5) 省エネルギー対応成果の検証

6) グループウェア（情報の公開、共有、活用）及びワークフロー（電子申請・届出）の実施

来年度から会議室予約および総務部所管各種申請書ならびに届出書類を伝票運用から電子運用に
順次切り替え予定

5. 大学院

1) 大学院収支状況の確認

2) 大学院将来構想計画策定の開始

3) 教員の研究評価

4) 研究体制の再整備

6. 大学

1. 教学

(1)教育

[1] 入試

平成22年度 事業計画及び予算の概要

地方会場の整理と東京会場の設置

[2] 卒前教育

- ①病院実習の期間延長
- ②院外実習の充実（教育包括連携病院・関連病院の精緻化と教育実習施設）
- ③5回生から6回生への評価の実施
- ④休職中女医対策としてのレジデント－助教枠確保と短期間雇用職員制度確立
- ⑤総合診療部（附属病院）の設置（総合内科／救急／I C U／その他）

[3] 大学院教育

- ①大講座教授会の大学院教授会への改組
- ②大学院教員組織の構築
- ③大学院専任教員の配置
- ④大学院研究機器の整備
- ⑤学位取得者優遇性の検討

(2)教育内容等

- ①医学教育制度改革委員会の立ち上げ（アドミッションポリシーの構築）
- ②「コメディカルと作る医療課題」委員会の設置：キャリア形成への諮問（医学部、看護学部、附属病院）

(3)教育実施体制等

- ①教員自己評価の実施
- ②教育専任教員の陣容拡大

(4)看護学部教育充実

- ①「大学協議会」（仮称）の設置
- ②看護実践能力を有する人材の育成
- ③教育、学生生活支援、看護実践研究のセンターを同学部に置き責任体制強化

(5)研究に関する目標

科研費応募を改善する目的での応募書類の質的点検実施と研究指導者の査定

(6)教育研究組織の見直し

- ①教育、研究、診療別に評価
- ②学部の講座編成の見直し及び大学院の充実

(7)人事制度の見直しと適正化

教員評価システムの導入

(8)評価の充実

新自己点検・評価組織委員会及びP D C A委員会を設置

(9)情報公開の推進

大学全体として統一化、効率化を図る

2) 附属病院

(1)患者本位の開かれた医療機関

- ①病院機能評価（Ver.6）の受審（実行委員会の発足）
- ②耐震構造等の再点検
- ③総合診療部設置に伴う組織変更（総合内科／救急／I C U／その他）

- (2)質の高い医療の提供
 - ①M F I C Uの稼動
 - ②N I C U、G C Uの増床
 - ③新病棟構想委員会の立ち上げ
 - ④院内がんセンター（がん連携拠点病院機能強化）設立委員会の立ち上げ
 - (3)臨床研究
 - ①レジデント枠の拡大と給与制度の見直し（増額）並びに助教（准）の整理
 - ②地域連携治験推進センターの立ち上げ
 - (4)質の高い医療従事者の養成
 - ①新医師臨床研修医48名確保
 - ②女性医師の復職支援ポストの設置
 - (5)地域社会との共生
 - ①紹介率・逆紹介率のアップ
 - ②医学部教育への地域医師会員の参加を企画し、F Dを年3回実施
7. その他の施設、組織
- 1) 健康科学クリニック
管理体制・運営内容・人員配置の見直し
 - 2) L Dセンター
管理体制・運営内容・人員配置の見直し
 - 3) 保育施設
在り方・建て替えの検討

V. 予算編成の基本方針

1. 基本的な考え方

教育・研究・診療の維持発展が可能な資金面の担保、限られた収入財源の計画的効率的な執行が可能な予算配分を行なうことである。帰属収支差額を黒字化させ累積消費支出超過の状況を改善することを基本的な考えとした。

2. 予算編成方針

経営状況の健全化指標として、帰属収支差額（黒字）の目標を**8億円以上**、資金繰り指標として繰越支払資金の目標を**最低限30億円確保**することを方針とした。

学校法人の全ての収入のうち負債とならない収入で予算編成ができるよう「経費削減」を最重要課題と位置付け、財政基盤の磐石化を図ることを目指した。

3. 収入面

帰属収支差額を黒字化させるため収入予算を過大積算せず、帰属収入を基にした事業計画の支出予算の選択と集中を行った。

4. 支出面

中期事業である新学部（看護学部）に係る支出を重点計画とし予算計上した。また、前年度に事業を開始した健康科学クリニックの運営費を経常経費として予算計上した。各部署からの新規業務予算要望は、財務内容の改善化を図る為、緊急性あるもの以外次年度以降に繰延を各予算要望部署に要請した。施設や設備関係の予算要望は、安全性の確保、緊急性の対応、法令遵守により必要最小限の範

平成22年度 事業計画及び予算の概要

圏とした。

VI. 平成22年度予算の概要

1. 資金収入

『学生生徒等納付金収入』は、平成22年度に看護学部を開設、看護専門学校募集停止、平成21年度からの医学部定員変更など増加減の要因を含み予算計上している。主な増加分は看護学部1億6,000万円である。看護専門学校募集停止による減額は6,320万円。医学部新特待生制度は対象者5名を予算化した。看護学部給付奨学金対象者4名を予算化した。入学辞退者は医学部78名を予算化し看護学部は辞退者を想定していない。

『手数料収入』は、看護学部出願者数の増加、医学部の一般入試と大学センターの出願者動向を予想し予算計上している。

『寄付金収入』は、創立80周年記念事業・机募金の募集期間が9月に終了、新学部設置事業の募集期間が12月に終了する。教育環境整備事業については一口当たりの寄付額が小口化し件数が減少傾向にある。対前年度予算△2億4,000万円を予算計上した。

『補助金収入』は、医工薬連環科学1,170万円、「高度周産期医療人養成推進プログラム」文部科学省（人材養成環境整備）4,000万円、淀川リバーサイズメディカルトレーニングサポートプログラム2,700万円、大学病院業務改善推進事業2,160万円など新たな補助金額を計上した。平成20年度文部科学省「大学病院連携型高度医療人養成推進事業」として採択された「近畿圏循環型医療人キャリア形成プログラム（4,325万円）」は継続して補助金額を計上した。

『資産運用収入』は、愛泉寮跡地4,166㎡の一時貸地利用料（㎡当たり232,000円の3%の9ヶ月）を計上した。テナント等施設設備利用料（喫茶室@63万円+売店@88万円等 年額2,420万円）、駐車場利用料9,500万円、マンション賃貸料6,000万円は前年度実績をもとに予算を計上した。

『医療収入』は、平成22年度診療報酬改定により10年ぶりに医療機関に支払われる診療報酬が増額された。DPC評価部分の医療機関別係数と今回の診療報酬改定で新たに導入された機能評価係数Ⅱを基に診療収入報酬改定による増収を3億8,000万円、MFICUの設置、NICUの増床、GCU設置、HCU設置の事業による増収を1億6,500万円と予測した。昨年6月に開設した健康科学クリニックの通年収入として4億5,800万円を計上した。また、これまで減収となる保険等査定額を健保調整差金として経費処理していた方法を変更し、医療収入から保険査定額として△7,340万円を予算計上した。平成22年度医療保険改定による増収見込みは、実現可能な額を予算化した。

『借入金』は、新学部に係る体育施設やサークル室、病院における耐震補強工事など大規模な投資が求められるが、平成22年度早急に対応すべき具体的な施設及び設備のための長期借入金の計画はない。しかし、平成22年度新規事業に係る諸費の運転資金として、新規借入金（5億円）を予算計上した。

2. 資金支出

『人件費』は、看護学部開設に伴う人件費として新たに3億円、健康科学クリニック人件費2億2,000万円を計上した。給与改訂は定期昇給のみとしベースアップ相当額は予算計上していない。派遣法制度強化により自由化業務である事務職等を直接雇用する人件費を、委託費から人件費に付替えし予算計上した。また、臨床研修医の研修手当を改定し待遇改善予算を計上した。教育職員に係る定年規程の段階的適用の最終年度にあたり教員定年退職予算を予算計上した。

『教育研究経費及び管理経費』は、看護学部に係る経費として1億2,900万円を予算計上した。看護

平成22年度 事業計画及び予算の概要

学部が施設を共用する看護専門学校の予算は対前年度予算△1,948万円を編成した。経常的な予算編成については、収支の均衡を失しないよう調整したが対前年度予算に対し2億1,500万円の支出を増額した編成内容となった。主な編成内容は次のとおり。

- ・医療材料費は、保険改定による薬価ベース△5.75%、材料費△0.13%を勘案し予算を計上した。
- ・賃借費は、リース取引に関する会計処理の変更により当該リースに該当する取引を設備関係支出とし結果賃借費の増加を発生させていない。期末未払金及び資金支出未払金調整勘定、消費収支の減価償却を勘案した予算編成内容である。
- ・委託費は、設備や機器等の保守費・手数料は未だ増加傾向に歯止めが利かず予算抑制ができていない。人件費に相当する役務費は職員人件費支出と関連させ調整したが、下半期分を支出抑制する目標予算を計上した。
- ・健保調整差金は、減収となる保険等査定額を経費処理していた処理を医療収入から減額する予算編成に変更したため経費を減少させた。これに関連し、医療収入は純額表示となり、今後健保調整差金予算は計上が不要となった。

『借入金等返済』は、前年度借入金の元金返済の新規予算を計上した。

『設備関係支出』は、リース取引に関する会計処理の変更によりリース契約相当額として病院ネットワーク更改3億9,800万円、大学ネットワーク更改7,900万円などを予算計上した。また、ソフトウェアに関する会計処理の変更により法人IT統合システム4,700万円、研究協力課システム1,300万円などをソフトウェア資産として予算計上した。看護学部に係る教具の充実予算として4,350万円、労働安全衛生法遵守予算（健康障害防止対策）として3,200万円、中央材料室高圧蒸気滅菌機、自動再来受付機更新、中央検査部血液検査システムなど予算計上した。査定削減したものとして、医療機器選定委員会予算を1億円減額予算化した。会計処理の変更に伴い図書電子ジャーナル予算を設備関係予算から教育研究経費に予算を付け替えした。

『施設関係支出』は、リハビリテーションセンター・61病棟・小児科・形成外科等の病棟周り、外来等診療区域改修工事として総額1億5,000万円を予算計上した。中央手術室改修、自動火災報知設備監視システム構築、照明設備改修計画などの予算措置を次年度以降に繰延した。補助金獲得を視野に入れた保育所建替計画は今後の検討事項とした。施設・設備計画は、中長期計画の視点から設備投資額と財務の健全性のバランスを考え、一部を次年度以降の事業計画に変更した予算編成内容である。

3. 繰越支払資金

予算編成方針である最低限の支払資金『30億円』の確保は達成している。（予算案37億5,900万円）。平成22年度予算編成において大型の施設や設備投資計画は安全性確保と緊急性の対応のみとし財務の健全性と将来計画との調整をおこなった。次年度繰越支払金（現金・預金）は、施設や設備の事業計画と借入金計画と大きく影響するため、耐震補強工事などの短中期的計画は、引当資産積立計画や借入金計画など綿密な計画を策定する必要がある。設備拡充引当資産や退職給与引当特定預金の積み上げ額の予算編成はできていない。

4. 帰属収入

法人運営に必要な消費支出の財源となる帰属収入は、医療収入が法人全体の事業計画の決定を左右している。

平成22年度の診療報酬改定による増収分を過大積算していない。今回の診療報酬改定による帰属収入の増収となる額は、人件費や教育研究費・管理経費等に消費せざるを得ない内容となっている。

平成22年度 事業計画及び予算の概要

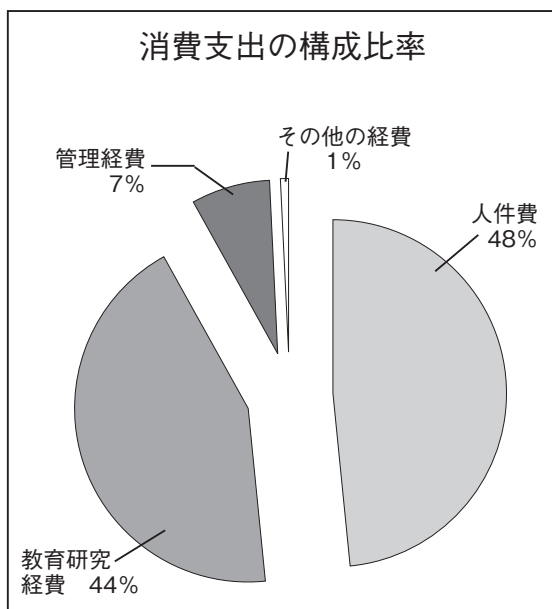
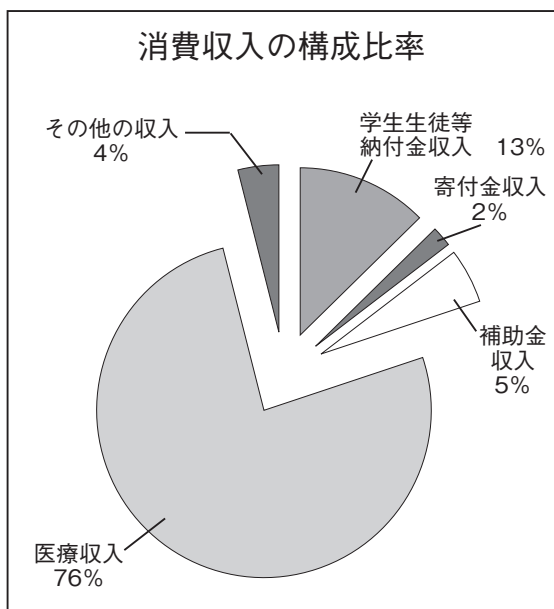
5. 消費支出

学校法人の全ての支出のうち、人件費、諸経費、減価償却、支払い利息など純資産の減少額は、短期間に政策変更が難しい人件費の増加、教育研究経費と管理経費の増加、施設設備の維持経費の増加、資産の減価償却額の増加などにより消費支出抑制ができていない。また、ファイナンス・リース対象資産について年間の減価償却額（健康科学クリニック9,148万円、MR装置6,174万円、ネットワーク更改56,480万円、CT装置割賦分8,170万円）の増加は更に消費支出を増加させた。当年度の帰属収入（294億2,700万円）と消費支出（297億7,000万円）が3億4,300万円支出超の状況である。消費収入と消費支出は△16億9,200万円となり均衡状態ではない。このような状況が長期的に生じることは本法人の持続性を脅かすことになる。各予算執行部署で経費の無駄をなくす目標設定を行い、法人全体が一丸となって経費削減に取り組まなければ消費支出の抑制は不可能である。

6. 帰属収支差額

法人が黒字か赤字かを判断する目安である帰属収支差額については、基本方針のプラス8億円の確保はできていない。帰属収支差額は△3億4,300万円である。平成22年度予算編成方針には重点経営計画として中長期事業である看護学部に係る新規予算がある。平成22年度予算における看護学部帰属収支差額は△2億4,700万円、昨年度開設した健康科学クリニック帰属収支差額は△9,700万円であり、この2事業による帰属収支差額の合計は△3億4,400万円となった。看護学部については、学部完成年度まで毎年度学納金収入は+1億6,000万円を確実に積算できる。健康科学クリニックについては、更に医業支出に対する医業収入額を高める経営努力が強く求められる。平成22年度予算編成では、法人の負債とならない収入（帰属収入）で人件費や諸経費などを賄いきれない内容となった。この状況は、法人経営に余裕がなく運営が窮迫した状況の予算編成内容といっても過言でない。教職員が一丸となり固定費を抑制できる財務体質改善なしには将来計画である病院8号館など大型事業計画の実現は困難であるとの課題を残した予算編成内容となった。

以上



平成22年度 事業計画及び予算の概要

平成22年度 収支予算

消費収支予算

(単位:千円)

消費収入の部				消費支出の部			
科目	平成22年度 予算額	平成21年度 予算額	増減(△)	科目	平成22年度 予算額	平成21年度 予算額	増減(△)
学生生徒等納付金収入	3,720,590	3,543,615	176,975	人件費	14,413,724	13,437,769	975,955
手数料収入	171,349	193,647	-22,298	教育研究経費	12,951,175	12,742,322	208,853
寄付金収入	575,000	828,928	-253,928	管理経費	2,181,184	2,522,098	-340,914
補助金収入	1,556,007	1,801,029	-245,022	借入金等利息	89,358	78,346	11,012
資産運用収入	262,231	297,060	-34,829	資産処分差額	11,307	12,100	-793
資産売却差額	0	10,000	-10,000	徴収不能額	23,345	25,680	-2,335
事業収入	295,975	203,820	92,155	予備費	100,000	100,000	0
医療収入	22,414,956	21,973,801	441,155				
雑収入	430,752	367,798	62,954	消費支出の部合計	29,770,093	28,918,315	851,778
帰属収入合計	29,426,860	29,219,698	207,162				
基本金組入額合計	-1,349,500	-1,833,600	484,100				
消費収入の部合計	28,077,360	27,386,098	691,262	当年度消費収支超過額	-1,692,733	-1,532,217	-160,516

資金収支予算

(単位:千円)

収入の部				支出の部			
科目	平成22年度 予算額	平成21年度 予算額	増減(△)	科目	平成22年度 予算額	平成21年度 予算額	増減(△)
学生生徒等納付金収入	3,720,590	3,543,615	176,975	人件費支出	14,388,360	13,500,279	888,081
手数料収入	171,349	193,647	-22,298	教育研究経費支出	11,123,065	11,188,122	-65,057
寄付金収入	565,000	807,503	-242,503	管理経費支出	2,029,547	2,352,258	-322,711
補助金収入	1,556,007	1,801,029	-245,022	借入金等利息支出	89,358	78,346	11,012
資産運用収入	262,231	297,060	-34,829	借入金等返済支出	1,088,470	552,647	535,823
資産売却収入	0	10,000	-10,000	施設関係支出	270,027	1,245,163	-975,136
事業収入	295,975	203,820	92,155	設備関係支出	1,585,575	1,237,150	348,425
医療収入	22,414,956	21,973,801	441,155	資産運用支出	55,500	355,500	-300,000
雑収入	430,752	367,798	62,954	その他の支出	3,008,216	3,697,750	-689,534
借入金等収入	500,000	1,500,000	-1,000,000	予備費	100,000	100,000	0
前受金収入	2,050,665	1,749,900	300,765				
その他の収入	4,154,054	2,102,389	2,051,665				
資金収入調整勘定	-6,174,546	-5,419,240	-755,306	資金支出調整勘定	-3,624,904	-2,948,020	-676,884
前年度繰越支払資金	3,925,000	6,022,805	-2,097,805	次年度繰越支払資金	3,758,819	3,794,932	-36,113
収入の部合計	33,872,033	35,154,127	-1,282,094	支出の部合計	33,872,033	35,154,127	-1,282,094

注：資金収支・消費収支両予算に共通する科目で予算額に差異のある科目については下記の理由による。

1. 「寄付金」には、資金収支上の寄付金のほかに、消費収支予算では現物寄付金が計上されている。
2. 「人件費」には、支払給与のほかに、資金収支予算では退職金支出額が計上されているのに対し、消費収支予算では退職給与引当金繰入額が計上されている。
3. 「教育研究経費」「管理経費」には、資金収支予算上の支払経費のほかに、消費収支予算ではそれぞれに減価償却額が計上されている。

中山国際医学医療交流センター

■タイ・マヒドン大学、中国医科大学およびオーストラリア国立大学学生の本学研修について

中山国際医学医療交流センター長 河野 公一

平成22年1月18日から1月29日までタイ王立マヒドン大学医学部シリラート病院の学生3名（第5学年のPamila Saengsupさん、同Jidapa Wongcharoenwatanaさん、同Satita Aimprasittichaiさん）、中国医科大学の学生2名（第5学年のYang Leiさん、同Qiu Linさん）がそれぞれ相互交流協定に基づいて、また海外選抜臨床実習の一環としてオーストラリア国立大学3年生Peter James Sturgess君が文科省・私立大学特別補助を受けて、本学附属病院および北摂総合病院などで研修を受けました。

学生たちはオリエンテーション・学内見学ののち、予めリクエストのあった診療科に本学5年生のクリクラおよびBMLのカリキュラムにあわせて配属されました。

学生はそれぞれの希望に沿って第1、第2、第3内科、小児科、神経精神科、救急医学、脳神経外科、整形外科、胸部外科、麻酔科、産婦人科、形成外科および北摂総合病院、三島救命救急センターなどで研修を受けました。

学生達は研修期間中に国際シンポジウムへの参加、また本学学生との様々な交流を行うなど、充実した2週間を過ごしました。

このたびの研修に際し、ご指導いただいた竹中学長をはじめ本学教職員各位、北摂総合病院の木野院長、三島救命救急センターの秋元所長やスタッフの皆様、また終始エスコートしていただいた5年生、国際交流部を中心とした学生諸君に対しあらためて御礼申し上げます。

※各国学生の感想文は中山国際医学医療交流センターのホームページに掲載予定です。



学長室にて：前列左よりMs. Jidapa Wongcharoenwatana、竹中学長、Ms. Qiu Lin、後列左より河野センター長、Ms. Pamila Saengsup、Ms. Satita Aimprasittichai、Ms. Yang Lei、Mr. Peter James Sturgess

■第10回国際交流シンポジウムを開催して

中山国際医学医療交流センター長 河野 公一

中山国際医学医療交流センターでは、毎年1回7月に学生を中心とした国際交流に関するシンポジウムを開催してきましたが、今年は1月29日（金）に第10回国際交流シンポジウムが行われました。

今回のシンポジウムは「それぞれの国の医学教育・スクールライフ・文化を学ぼう」をメインテーマに、ロシア、グアテマラ、中国、エジプト、オーストラリア、タイ、日本の7カ国の医学生、大学院生・リサーチフェローの参加を得て開催されました。

中国からは本学との交流協定に基づいて瀋陽にある中国医科大学（7年制）の5年生、Lin QiuさんとLei Yangさん、エジプトからは本学消化器内科リサーチフェロー（国費留学生）のUsama Mohamed Abdelaalさん、またオーストラリアからは、海外選抜臨床実習を本学で行っている国立オーストラリア大学医学部のPeter Sturgess君、グアテマラからは同じくFrancisco Marroquin大学医学部3年生（7年制）のElenora Berduoさん、タイからは一昨年に本学との交流協定を結び相互交流を行っているマヒドン大学医学部シリラート病院5年生のJidapa Wongcharoenwatanaさん、Pamila Saengsupさん、Satita Aimprasittichaiさん、本学からは医学部3年生の楠田梨沙さん、4年生の吉田江里さん、阿部由督君、古曾部和彦君の4名が参加し発表しました。またロシアからは7年前より相互に夏期病院研修を実施し

ているアムール医科アカデミーの学生 Anya Skolubovich さんによるビデオ参加がありました。

今回のシンポジウムは第10回の節目でもあることから、タイより特別ゲストとして元タイ国外務大臣、文部大臣で日本政府より旭日大綬章を授与された王立ナラティワート大学総長の Dr.Krasae Chanawongse とご子息でタイ東北部 Khon Kaen の College of Asian Scholars 学長の Dr.Kasom Chanawongse の参加を得ました。

シンポジウムは、交流センター運営委員で、附属病院長である花房俊昭教授の座長進行により行われました。発表内容は、各国の医学教育のシステムや、医師免許取得に至る仕組み、さらにスポーツクラブや文化活動などの学生生活等、お国柄の違いも反映された素晴らしいものばかりで予定時間の2時間があっという間に過ぎました。特に質疑応答ではコメンテーターとして



参加していただいた本学教育センターの宮本学准教授、衛生学公衆衛生学の清水宏泰講師や、フロアの学生諸君による活発な討論は、引き続いて開催された本学食堂での意見交換会にまでおよび、学部学生や大学院生による国際交流を育むとともに英会話能力やコミュニケーションスキルの向上に資するというシンポジウムのもう一つの目的は十二分に達成されたことを実感しました。

この国際シンポジウムは年々参加国も増加し、発表内容も多彩でそれぞれ創意工夫がみられ、大変有意義であったとともに、ご助言ご助力をいただいた教職員各位、学生諸君に誌上をお借りして感謝申し上げます。

以下本学代表の4名の学生のうち、楠田さんの感想をご紹介します。



■国際交流シンポジウムに参加して

第3学年 楠田 梨沙

今回、縁あって日本の発表者という形でこのプログラムに参加させていただきました。正直なところ、当初は他国の医療制度、文化について知識を深め、各国の医大生との交流ができると軽い気持ちで臨んでいたのですが、発表準備段階で自国についてあまりにも知識がない自分に呆れて、少しばかり落ち込んだりもしたものです。実際には「SUSHI」について発表したのですが、このテーマに決めるまでに他にも様々な日本文化を調べ、その度に新しい発見がありました。

各国の代表者の方々は素晴らしいとしか言いようがありません。それぞれの国の医学、学生生活、文化への造詣が深いことはもちろんのこと、その発表の仕方も個性豊かで見ていて飽きないものばかりでした。特に印象に残ったのは、中国の日本語コースの学生は中国語、日本語、英語の3ヶ国語で医学を学ぶということです。この話には衝撃を受けました。余談ですが、中国の彼女たちは私の発表を覚えてくれていて、シンポジウム後の交流パーティーで「SUSHI GIRL!」と言って話しかけてくれました。発表を引き受けてよかった、と思えた瞬間です。

国際交流シンポジウム、それは本学が用意してくださった世界の医学生の異文化交流の場であります。それと同時に、私にとっては日本を見つめなおす場でもありました。このような機会を与えてくださった中山国際医学医療交流センター、ならびに関係者の方々に心より感謝いたします。

■韓国カソリック大学医学部との国際交流協定の締結について

中山国際医学医療交流センター長 河野 公一

平成22年3月4日、韓国カソリック大学医学部長の Jin Kim 教授、国際交流部副部長の Seung-Ho Han 教授、医学教育担当教授の Sun Kim 教授、同じく医学教育担当・同シミュレーションセンター長の Joo-Hyun Park 准教授、産学協力部門長の Kyu-Jeong Hwang さんを迎えて国際交流協定の調印式が行われました。

韓国カソリック大学は1855年に創立され、首都ソウル近郊に3つのキャンパス（医学部など12学部）を有する韓国で最も伝統のある総合大学のひとつです。医学部は1954年に設立され、首都ソウル市を流れる漢江の南に広大な敷地を有し、最新の学内ネットワークシステムを備えた講義・研究棟や附属病院（韓国内に8病院を展開）があり、大学院を含む約1000名の学生が快適な環境で学んでいます。

調印式は本学竹中中学長、センター運営委員の米田教授、大槻教授、島原教授、玉井教授、黒岩教授、教育機構の出口専門教授、教育センターの宮本准教授らの出席のもと行われました。協定書には学部学生、大学院生およびレジデント、教職員の相互交流に関する大学間の覚書や学部学生の短期病院研修などに関する具体的取り決めなどが含まれています。

Kim 教授らは翌3月5日の本学卒業式にも参列され、また謝恩会では海外の交流大学を代表して、卒業生への祝辞を述べていただきました。一行は4日間の短い滞在でしたが、学内案内では建設中の看護学部新研究棟を含む本学諸施設の充実ぶりには感心されることしきりでした。

今後、協定書の締結を契機に両大学の医学交流がますます盛んになることが期待されます。（なお今年5月末には同大学より4名の医学生が約3週間、本学附属病院などで臨床実習を受ける予定です。）



調印式場にて：前列左よりJoo-Hyun Park 准教授、Seung-Ho Han 教授、Sun Kim 教授、医学部長 Jin Kim 教授、竹中中学長、Kyu-Jeong Hwang さん、河野センター長
後列左より宮本准教授、米田教授、大槻教授、玉井教授、黒岩教授、島原教授、出口専門教授

■ハーバード大学公衆衛生大学院学生の本学訪問について

中山国際医学医療交流センター長 河野 公一

平成22年3月17日、ハーバード大学公衆衛生大学院の学生15名（米国、カナダ、中国人医師など各国から入学しています）、引率教員5名が本学を訪問されました。

ハーバード大学公衆衛生大学院では例年学生達による短期海外研修カリキュラムがあり、今回は、昨年より本学衛生学・公衆衛生学大学院の辻洋志先生がフルブライト財団奨学生として同校に留学中のため、本学への訪問が実現しました。

一行は前日の大阪府立母子総合保健センターの見学などタイトなスケジュールではありましたが、当



歴史資料館階段講堂にて

日、わが国や本学医学教育システムを説明させて頂いたあと、附属図書館や新・旧講義実習棟の見学では施設・設備の充実ぶりに感心され、多くの質問がなされました。

その後、歴史資料館3階での昼食を兼ねた意見交換会には、多くの本学学生をはじめ、ハーバード大学OBの北摂総合病院・木野院長や泌尿器科の東准教授にも参加していただき大変有意義な会になりました。午後は本学健康科学クリニックの見学をされましたが、海外でも珍しいわが国の健診システムは大いに参考になったとの感想が寄せられました。

一行はその後、長崎大学熱帯医学研究の見学などを終えて帰国されました。

今回の本学での研修にご協力いただいた関係教職員各位にあらためて感謝申し上げます。



■スタンフォード大学医学部 Faculty Development Center ワークショップの本学での開催について

教育センター 宮本 学

スタンフォード大学医学部 Faculty Development Center for Medical Teachers から Georgette Stratos 先生と Kelly Skeff 先生を招聘し、3月19日、20日に「臨床教育改善のための方策」と題するワークショップを行った。3月18日午前中の竹中洋学長への表敬訪問に引き続き、河野公一中山国際医学医療交流センター長が両先生に Visiting Professor の称号を授与した。そのあと講義実習棟、新講義実習棟、図書館、看護学部・附属看護専門学校、歴史資料館への見学が行われた。

ワークショップは、日本全国の大学から医学教育専門家9名と本学から若手教員7名が参加した。スタンフォード大学医学部での30年間の臨床医学教員育成の功績は世界的に高く評価されており、7つの重要項目の一つ一つについて説明と討論が深く行われた。もともと、軍の医官だった Skeff 先生のロールプレイを用いたデブリーフは素晴らしく、ほかのセッションを含めて日本ではとても体験できないものであった。本学にとっても、大変有意義なワークショップであった。



■ハワイ大学医学部による「“ハワイ型”問題解決型学習 (PBL)」デモンストレーションについて

教育センター 宮本 学



ワークショップの様子

ハワイ大学医学部 医学教育室・大阪医科大学 教育センター・中山国際医学交流センター共催で Richard Kasuya 先生 (Associate Dean for Medical Education) と 6 名のハワイ大学医学部学生が来日し、平成 22 年年 3 月 28 日 (日) 15:00 - 18:00 (19:00 - 21:00 意見交換会) に“ハワイ型”問題解決型学習 (PBL) のデモンストレーションライブを行いました。

東京医科歯科大学、岐阜大学、愛知学院大学、関西医科大学から 5 名の医学教育専門家教員と浜松医大、岐阜医大などから 17 名の医学部学生の参加がありました。

PBLの解説に続いて、ステップ1のアクティブチュートリングや仮説・ニードツウノウ・ラーニングイシューの同定や討議を導く様子をライブでデモンストレーションしました。また、引き続いて日本の学生の参加によるPBL体験がKasuya先生をチュータとして行われました。ハワイ大学学生によるラーニングイシューのプレゼンテーションも行われました。この催しは、医学教育における国際交流を進めるためにフリードマン財団のグラントによるものです。入学してわずか数ヶ月にもかかわらずハワイ大の学生は優秀で、入学直後から実際の臨床実習を伴うPBLカリキュラムの効果に驚かされました。本学でのPBL改善の課題と思われました。

いままで培ってきたハワイ大学との交流の中から、他大学も含め上級生から下級生まで協力して次の世代へ良いPBLを引き継いでいくという、一種の学生版ファカルティ・デベロップメントと捉えることができました。

ハワイチームは、以下のとおりです。

Dr. Richard Kasuya, Associate Dean for Medical Education, UH JABSOM

Mr. Raymond Tabata, Educational Program Specialist, OME

Ms. Margit Sande-Kerback, Educational Program Specialist, OME

医学部学生 (第一学年) :

Ms. Chi Nga (Mandy) Chan

Mr. Reis Harney

Ms. Luella Manlucu

Ms. Jennifer Tamai

Mr. Chuong Tran

Ms. Alycia Yee



米田 博先生、河野公一先生のご尽力をはじめ、5 学年松浦広昂君、他学生の協力で盛会に終わることができました。ご協力下さいました事務の方、関係各所の皆様にお礼申し上げます。

■平成21年度教育センターレクチャーシリーズ

教育センターは平成21年度のFD活動として、教育センターレクチャーシリーズをはじめ以下の通り4回の講演を行った。毎回数十名の参加者があり、本学の医学教育を考える上で重要な機会を持つことができた。さらに平成22年度は毎年開催している総合教育、OSCEワークショップに加え、平成22年3月19日～20日、米国スタンフォード大学医学部ファカルティ・デベロップメントセンターよりケリー・スタッフ、ジョーゼット・ストラトス両先生を招聘し医学教育指導改善ワークショップを開催、また平成22年3月28日はハワイ大学よりリチャード・カスヤ先生を招聘し、ハワイ方PBLデモンストラーションを開催、両ワークショップともに学内外より数十名が参加、医学教育改善の為の熱心な討議・演習が行われた。

回	日 時	演 題	講師／演者等
第1回	平成21年4月24日(金) 17時～18時30分	Is the character of the physician important?	ウイスコンシン大学医学部 Gordon M. Greene教授
第2回	平成21年6月9日(火) 17時～19時	教育著作権セミナー	放送大学ICT活用・遠隔教育センター 尾崎 史郎 教授
第3回	平成21年7月23日(木) 17時～18時	慈恵医大での地域医療実習	東京慈恵会医科大学 教育センター 医学教育開発室・スキルスラボ管理 柵山 年和 講師
第4回	平成21年11月23日(月) 16時30分～19時	・プログラムエキスパートとの共同作業によるシナリオの作成とその実施 ・シミュレーションを用いたカリキュラムの開発 ・シミュレーション基盤型教育の方法論 ・シミュレーションにおける国際協力	ハワイ大学医学部シムティキ シミュレーションセンター Kristine Hara主任 Benjamin W Berg所長

■平成21年度提供講座（「医療をとりまく社会環境」）実績報告

平成21年度カリキュラムの中で提供講座（「医療をとりまく社会環境」）を以下スケジュールで開講しました。

- ・対象は第4学年101名、一月2コマ（通算0.5単位）の必須講義
- ・野村證券（提供元）からの講師派遣（特別講師）、所属講座は教育センター

講座名	ガイダンス 《経済・金融の基礎知識》	人口減少に挑む日本～効率的な医療制度の構築に向けて～	医療法人経営と格付け	医療法人を取り巻く環境M&A	グローバル化と文明の多元化にどう対応するか
開講日	平成21年10月7日(水) 13時～15時10分	平成21年10月21日(水) 13時～15時10分	平成21年11月18日(水) 13時～15時10分	平成21年12月9日(水) 13時～15時10分	平成22年1月13日(水) 13時～15時10分
講義場所	臨床第1講堂	臨床第1講堂	臨床第1講堂	臨床第1講堂	臨床第1講堂
講師氏名	小鼻 宣英	西澤 隆	下山 直人	中村 大正	萩尾 千里
現 職	野村証券大阪支店 金融公共法人部	野村証券金融経済研究所 経済調査部 次長兼経済解析課長	シニアリスト	野村ヘルスケア 代表取締役ファンド 部門担当	株式会社大阪国際会議場 代表取締役

臨床研究教育研修会報告

■臨床研究教育研修会報告

日 時：平成22年3月8日（月）17：30～19：00

場 所：臨床第I講堂

演 題：臨床試験におけるインフォームド・コンセントの法的効力と限界

講 師：関西大学法学部 教授 葛原 力三先生

医学の進歩には人を対象とする試験（研究）が最終的に必要となりますが、参加される被験者の権利・利益が何よりも優先されなければなりません。本年4月、完全施行された「臨床研究に関する倫理指針」改訂版において、「研究者等は臨床研究の実施に先立ち、臨床研究に関する倫理その他臨床研究の実施に必要な知識について講習その他必要な教育を受けなければならない」が明記されました。これに従い、臨床研究に携わるすべての医療従事者に対する集合研修として教育研修会を計画し、平成21年度第2回目として実施しました。



研修会は林臨床治験センター長の司会のもと、竹中洋学長による開会挨拶の後に葛原先生が講演され、インフォームド・コンセントに係る薬事法等の「法源」、「補償と賠償」、「拘束力と制裁」をはじめ、「被験者の理解能力を超える場合の同意の有効性」、「治験における効果・リスク説明の困難さ」、「生命に関する自己決定権」等について、レジュメを用いてわかりやすく説明されました。

最後に閉会挨拶として米田大学院委員会委員長より同先生への謝辞が述べられました。本研修会は倫理委員会申請時に必須とされている教育研修の一環として認められることから、医師をはじめ、看護師、技術員、事務職員の方など約100名の参加を得て、第1回に引き続き、第2回研修会も盛会のうちに終了しました。

平成22年度は下記の日程で開催致しますので、奮ってご参加ください。

第1回 平成22年7月26日（月） 17：30～19：00

第2回 平成23年1月24日（月） 17：30～19：00



葛原先生



竹中学長



米田大学院委員会委員長



林臨床治験センター長

平成21年度卒業証書・学位記授与式

日 時：平成22年3月5日（金）14：00～
場 所：高槻現代劇場 B2F 中ホール
医学部医学科卒業生 99名



■平成21年度 卒業式 告辞

学長 竹中 洋

第59期生の皆様、ご卒業おめでとうございます。また、保護者の皆様にも心よりご子息・ご令嬢のご卒業をお慶び申し上げます。

大阪医科大学にとりまして、卒業式は大変重要な学事でございますが、関西医科大学 学長 山下先生始め、ご列席頂いております多くのご来賓の皆様にご挨拶に教員並びに卒業生を代表して御礼申し上げます。

本日は特別ご来賓として、昨日、学術と学生交流の調印式を行いました韓国カソリック大学代表の諸先生をこの場を借りてご紹介申し上げます。

I would like to introduce you to our guests from the Catholic University of Korea, School of Medicine.

Dean, Professor Jin Kim

Vice-Director of External Affairs, Professor Seung-Ho Han

Department of Medical Education, Professor Sun Kim

Director of START Medical simulation center, Associate Professor Joo-Hyun Park

Manager, Industry-Academic Cooperation Team, Ms. Kyu-Jeong Hwang

Thank you for your attendance at the graduation ceremony of Osaka Medical College. It is our great pleasure and honor to have the signing for the academic and educational exchange between the Catholic University of Korea, School of Medicine and our college, yesterday. We hope this exchanges will continue forever. Thank you again for your visit on this memorial day.

さて、諸君が大阪医科大学に入学された平成16年は奇しくも新医師臨床研修医制度が導入された年でもあります。多くの医師国家試験合格者は附属病院以外の病院に研修の場を求めて大学附属病院は混乱を極めました。その前年の平成15年には診断群分類に基づく医療が大学附属病院を中心とした特定機能病

学内行事

院に課せられています。この制度によって、予め病名や治療方針が定まって入院をすることが原則化されました。その結果、在院日数が短縮されただけでなく、医師の説明責任や治療の標準化が大きく進展しました。

ほぼ同時にスタートした国公立大学などの大学院重点化とも重なり、各診療科においては市中病院から大学へ、或は大学から市中病院への人事交流は破綻を現し始めました。即ち、研修医は市中病院へ流れ、市中病院の臨床を支えていた専門医を目指す若手医師の多くが大学院へと方向性を一斉

に変えたこととなります。この時点で、今日の医療崩壊は予想されていましたが、厳しい仕事環境を嫌う風潮との相乗効果で、外科、産科、小児科や救急の分野で医師不足とそれに伴うシステム破綻が顕在化してきたことはご承知の通りです。

また、医学教育も教室や講座単位で実施されていた個別的な講義型式からPBLチュートリアル方式が広がり、本学でも教育センターや教育機構が学部教育の中心的役割を果たすようになりました。教育の質は担保され教員が全体として教育に参加する利点はありますが、指導的な立場にある教員と学生諸君の接触機会は減少した感もあります。特に臨床系では病院実習以外に教授や准教授との接触機会が少なくなったと思われます。

一方、医学部学生が学ばなければならないことは飛躍的に増加しており、特に従来の学問体系は大きく変貌を遂げました。生理学から生化学或は生化学から免疫学へ手法は重なり、対象は限りなく先端医学に向って収束を遂げています。臨床医学においても、がん対策基本法の制定や移植法の上程で、治療理念は大きく変貌し、患者個人の選択性は飛躍的に大きくなっています。今後、臓器によっては内科と外科の差は無くなり、診断学と治療学が疾病毎に標準化される時代がそこまで来ています。このように、制度も学問体系も社会環境も変わる中で諸君は医師の道を目指し、本日、大阪医科大学から羽搏こうとされています。その門出に際し、私は学長として「惜しみなく病めるものに尽くせ」の言葉を贈りたいと思います。

健康であり続けることは万人の希望であります。しかし、残念ながら我々は病を得た人たちのすぐ側にいます。科学が発展した今日であれ、理不尽に、思い半ばに倒れるのが我々ひとの現実であるとすれば、医師たるもの惜しみなく時間と知識と技術を病める人たちに捧げる気持ちが必要です。諸君は何れ主治医が疲れとストレスから力尽きようとしているときに、励ましてくれる患者さんに出会うことになります。その一体感を得る為には、自らが与えることができる最善の努力をすることが最も確実な道であります。

今週の月曜日の朝、自宅の庭で鶯の初鳴を聞きました。未だ正確にホーホケキョと鳴けない鶯も3月も半ばには立派に鳴いて



みせてくれます。諸君の医師としての成長は我々教員にとって大きな喜びであります。どうぞ選択された各々の道で立派に夢を実現されますことを切に希望致します。

また、保護者の皆様には改めてご子息ご息女のご卒業をお祝い申し上げるとともに、これまで注がれた深い愛情に心より敬意を表したいと思います。

最後に大阪医科大学と大阪医科大学の教職員は、卒業されても何時も諸君と一緒にありたいと念じておりますことを申し添えます。本日はご卒業おめでとうございます。



平成21年度 附属看護専門学校卒業式・謝恩会

平成22年3月10日

暖かな春の日差しがみられた2～3日前とは打って変わってとても寒く、空からいつ雨が降り出すのかわからないような天候の中、看護学科25回生、71名の3年間の完成を祝う式典が挙行されました。

卒業式では國澤理事長様を始め多くの学内外からの来賓をお迎えし、高槻市保健所杉田所長様に奥本市長様からの祝辞を代読していただき、竹中学長様や花房病院長様からも暖かい祝辞をいただきました。

答辞では総代が「私たちは今、新たなスタートラインに立とうとしています。この先にゴールはありません。看護に限りはなく、患者様に最善のケアを実践していくことが求められるからです。頭では理解できていても、本当に自分にできるのかと不安に押しつぶされそうになりますが、初心を忘れず一つひとつの出会いを大切にしながらがむしゃらに進んでいきたいと思います。夢に向かって一緒に歩んできた仲間がいることを誇りに感じながら、この先どんなに厚く高い壁が立ちほだかろうとも乗り越えていきたいです。」と堂々と述べてくれました。

夕刻からは、たかつき京都ホテルで謝恩会が開催されました。卒業式の白衣姿から衣装を替えて、袴あり、振袖ありの晴れやかな輝かしい変身ぶりでした。お世話になった講師の先生や、看護部長様、臨床の指導者の方々と、思い出を語り合ったり、メッセージをいただき、和やかな感謝のひとときを持つことができました。

看護学校での3年間の学びを自信にして、一人ひとりの看護への熱い思いを胸に、思い切り羽ばたいてくれることを願っています。



学内行事

平成22年度 医学部新入生学外合宿

今年度の「医学部新入生学外合宿」は、開催場所を「ラフォーレ琵琶湖」（滋賀県守山市）に変更し、新入生111名、教職員約30名の参加のもと、4月6日（火）～8日（木）の2泊3日にわたり実施されました。

新入生たちは、与えられた課題に対するグループ討議、救急蘇生座学・体験学習、レクリエーション、懇親会等を通じてお互いの親睦を深めました。



平成22年度 看護学部新入生学外合宿

看護学部1期生の「新入生学外合宿」は、「大阪府立少年自然の家」（貝塚市）において、4月7日（水）～8日（木）の1泊2日で実施されました。

新入生88名は、研修「大阪医科大学の歴史」、「看護ってどんな仕事？」（ブレインストーミングと発表会）、野外炊飯（カレーライス）、周辺山々のオリエンテーリングなどに熱心に取り組み、学生同士や教職員約30名との親交は順調な滑り出しでした。



平成22年度 職員入職式

日時：平成22年4月1日（木）午前9時30分～
場所：臨床第一講堂

看護師88名、技師・事務職等20名、計108名の入職式が行われました。

理事長による辞令交付ののち、理事長、病院長からの訓示がありました。



病院医療相談部 第7回連携実務者会議



平成22年2月19日(金)午後4時から大阪医科大学 学I講堂にて、第7回連携実務者会議を開催致しました。

「顔の見える双方向の医療連携」を目指し、より一層の連携充実を図ることを目的として、25病院(45名)の参加がありました。

今回は病院医療相談部医療連携室室長 木村文治先生より「脳卒中地域連携パスの現状と問題点について」という演題で、地域連携パスの黎明期から現在に至るまでの経過と現状、問題点について詳細に解説をしていただきました。講演後に実施したアンケートでも、「地域連携パスについての分析が詳しくされており、分かり易かった。」「他地域の地域連携パスの状況が理解できた。」「高槻市における地域連携パスのシステムが良く理解できた。」等の感想が多く寄せられました。

また、会議終了後の懇親会でも、活発な情報交換を行なうことができました。今後もこの会を発展的に進め、来年に向けても各病院からの意見・問題点を提議いただき充実を図りたいと考えます。



健康科学クリニック主催「市民講演会」開催

健康科学クリニック主催の市民講演会が次のとおり開催され、150名の方々の参加がありました。

日時：平成22年4月10日(土) 13:30～

場所：附属看護専門学校・看護学部 講堂

テーマ：「清々しく毎日を過ごすために」

演題：藤原 祥子 医師

「ピロリ菌と慢性胃炎、胃がんとの関係
—あなたの胃の中にもピロリ菌はいるのか?—

後山 尚久 医師

「女性の医療をこころとからだで考える
—貴女が健康な笑顔で暮らせるために—



第5回治験説明会

平成22年2月18日（木）、第5回治験説明会を開催いたしました。この治験説明会は、皆様に「治験」についての理解を深めていただけるよう、臨床治験センターが毎年テーマを変えて開催しているもので、今回も医師、看護師、薬剤師、事務職等の方々にご出席頂きました。

花房俊昭病院長による治験説明会開催のご挨拶に続き、臨床治験センターのCRC（治験コーディネーター）から「新薬を早く世の中に出すために」というテーマで発表を行いました。当院で実施した治験の中で、厚生労働省から承認され発売に至った医薬品の紹介を交えながら、新薬の開発には長い年月がかかること、また日本と欧米との間に新薬承認までに時間差があり、海外では日常診療に用いられているのに、日本で使えない薬が多い現状等を説明しました。

特別講演として、一般小児科・玉井浩先生に「子どもにお薬を安心して使うために」という演題でお話いただきました。小児領域の新薬開発は、採算性が低いなどの理由から製薬企業が開発に消極的であることが多く、そのため小児の頻用医薬品の約7割が、小児に対する正式な承認が得られていないまま医師の裁量と責任によって使用されているという、小児科医療における大きな問題点が浮き彫りになりました。子どもも親も、そして処方する医師も安心してお薬を使いたいという思いから、本学小児科では、製薬企業から子どもに対する治験の実施を依頼された場合には、できる限り引き受けていると語られました。これまでに20件以上（約10薬剤）の治験を実施されており、こうした背景には先生方の「安心して子どもにお薬を使いたい」という熱い思いが詰まっていたことを改めて知り、治験の重要性を痛感致しました。

臨床治験センターでは新たに2名が日本臨床薬理学会認定CRCに合格し、これで認定者が5名となりました。来る平成22年10月1日にはセンター開設10周年を迎えます。より良いお薬を患者さまのもとへ早く届けられることを願って、今後も治験の活性化に取り組んでいきたいと考えておりますので、ご協力をお願い致します。

※院内教職員・学生対象

第5回治験説明会のご案内

日時：平成22年2月18日（木）
17:00～18:00
場所：臨床第Ⅰ講堂
〈内容〉 司会：臨床治験センター長 林哲也
 ・「はじめに」 病院長 花房 俊昭
 ・「新薬を早く世の中に出すために」
 臨床治験センター
 ・「子どもにお薬を安心して使うために」
 一般小児科 科長 玉井 浩
 ・質疑応答
 皆様のご参加をお待ちしております。



臨床治験センター・原CRC



一般小児科・玉井浩先生

平成22年度 市民公開講座

■第1回

平成22年度4月17日(土) 14時～ 臨床第一講堂
『脳卒中にならないために、なった時のために』
脳神経外科 講師 田村 陽史

『脳卒中を予防する薬』
附属病院薬剤部 坂井 美佳

『脳卒中の予防～日常生活で注意出来ること～』
附属病院看護部 認定看護師 壇上 明美



平成22年度 市民公開講座開催予定

回数	開催日	演 題	講師 (医師)	演 題	薬剤部	薬剤師
					看護部	看護師
第1回	4月17日(土)	脳卒中にならないために なった時のために	脳神経外科 講師 田村 陽史	脳卒中を予防する薬	坂井 美佳	壇上 明美
				脳卒中の予防(日常生活で 注意できること)		
第2回	5月15日(土)	増えている前立腺がん ～前立腺がん検診の大切さ～	泌尿器科 助教 水谷 陽一	前立腺がんの薬物療法 (抗男性ホルモン剤)	片岡 憲昭	横山 幸子
				前立腺手術後の排尿ケア について		
第3回	6月19日(土)	ペインクリニックで の痛みの治療	麻酔科 講師 西村 渉	ペインクリニックで使用 される薬の正しい理解	和田 有可里	西村 あかね
				痛みと日常生活		
第4回	9月4日(土)	日本人に多い目の病気 緑内障とは?	眼科 講師 杉山 哲也	緑内障に影響を及ぼすお 薬について	高嶋 美季	上野山恵子
				正しい点眼方法		
第5回	11月6日(土)	他人に言えない悩み ～頻尿と性器脱～	産婦人科 講師(准) 田辺 晃子	頻尿の治療薬	平 祥子	金江 由香
				頻尿時の留意事項		
第6回	12月18日(土)	肝臓病の診断と治療	内科学Ⅱ 講師 福田 彰	インターフェロンについて	牧 智恵子	末光 茜
				インターフェロン治療中の 日常生活		
第7回	平成23年 1月15日(土)	慢性肝臓病(CKD) を知ろう	血液浄化センター センター長 井上 徹	お薬と腎臓の話	牧野 順子	澤井美奈子
				腎臓病の食事と日常生活		

■高槻市大学交流センター事業市民講座 平成21年度第1回(延期分)開催

平成22年2月18日(木) 16:30～18:00
高槻市総合市民交流センター 第6会議室
講師:化学・生体分子学 教授 古谷榮助
演題:「酒との上手な付き合い方」

※ 平成21年10月8日に開催を予定していましたが、
台風18号の影響により延期になっていた講座です。



キャリア形成支援センター

■医師・看護師の復職復帰をサポートします

文部科学省の「21年度大学教育充実のための戦略的大学連携支援プログラム」で採択された『淀川リバーサイズメディカルトレーニングサポートプログラム』として、地域における医学・看護学教育の発展および充実に寄与するため、高槻市・高槻市医師会との連携協力に関する協定に基づき、事業を推進しています。今回、最初の活動として、結婚、出産、育児や介護等により医療現場からの離職を余儀なくされた医師・看護職者の再就職を支援するための職場復帰支援研修を企画しました。高槻市の広報を通じて募集活動をした結果、職場復帰を目指す看護師の方々からの問い合わせがあり、研修を希望する16名の方々に対して2月16日（火）と3月12日（金）の半日コースで看護師復職トレーニングを実施しました。



研修は看護部や臨床検査技師のご協力をいただき、バイタルサイン測定、フィジカルアセスメント、心電図装着、静脈注射（留置針）、輸液ポンプ、シリンジポンプの取扱い等のシミュレータや医療機器を使用した研修は好評であり、当初計画していた医療現場の見学を取り止め、自己学習する時間に変更するなど熱心に研修に取り組み、職場復帰に自信を持ってお帰りいただきました。今後も計画的に研修を企画し、地域医療に貢献していきたいと考えています。

■カンタン救急蘇生法・AED講習会の開催について

最近、AED（Automated External Defibrillator自動体外式除細動器）は公共の場所に設置されており、心肺停止状態の患者のいる救急現場に居合わせても、常日頃から使用した経験があれば、迅速かつ正確にAEDを用いて除細動を行うことができ、一つの命を救うことができるのです。

“あなたはAEDを使いこなせるでしょうか。”

本学のライフサポートクラブが主体となり、救急医療部の先生方の協力を得て、2月12日（金）にコマメディカルや事務職等46名の方を対象とした『カンタン救急蘇生法・AED講習会』を開催しました。参加された皆様には大変熱心に受講され、心肺蘇生法の重要性を理解していただくことができました。当面、淀川リバーサイズメディカルトレーニングサポートプログラムの活動の一環として支援しますので、本学の学生、職員の皆様方には心肺蘇生法とAED講習会への積極的なご参加をお願いします。



緊急時に対応できるようになるためには、数多く体験することが大切と考え、今回の講習会から、初級（1～2回受講者）、中級（3～4回受講者）、上級（5回以上受講者）の3段階を設けて、受講回数により、終了証と終了シール（名札ケースに貼付用）をお渡ししています。

今後も講習会の開催を計画していますので、多くの方々のご参加をお待ちしています。

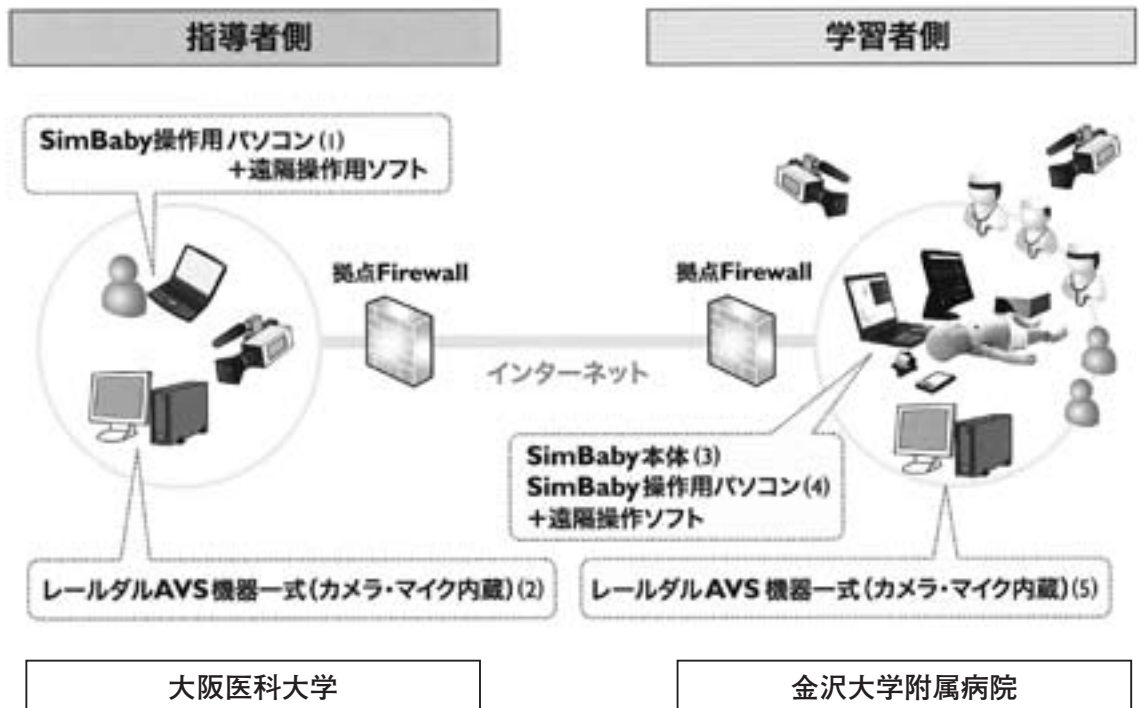
（問合せ先：キャリア形成支援センター）

■遠隔操作システムを活用した医学教育の試み

3月16日（火）午後6時から、メディカルトレーニングサポートセンターにおいて本学と金沢大学との間で、高機能シミュレータを使用した遠隔シミュレーショントレーニング教育が開催されました。

今回の遠隔操作システム（下図）は乳児シミュレータを用いたもので、指導者は本学・救急医療部の新田雅彦先生が担当し、受講生は金沢大学・附属病院小児病棟看護師の方々をお願いしました。また、急変した乳児の対応について学習していただき、最後に相互の意見交換も実施し、研修の成果は充分期待できるものと確信しました。また、トレーニングを見学された本学附属病院の看護師の方々にも、最後まで熱心に、最新の医学教育の現状を勉強していただきました。

このような研修は国内外を問わず、指導者の育成や学習者が教育を受ける機会を飛躍的に増加させるものと期待されており、今後は他大学へも拡大していきたいと考えています。



■医療に係る安全管理のための職員研修 第23回事例検討会

事例・発表部署：① タイムアウト導入について（中央手術部・麻酔科）

② 救急医療部からの事例（救急医療部）

開催日：平成22年2月5日（金）午後5時～6時

※平成22年2月23日（火）～2月26日（金）DVD上映会

2月5日（金）午後5時より、臨床第一講堂・臨床第二講堂において、米田医療安全推進部長の挨拶に続き、村尾医療安全対策室長の司会により、教職員を対象に事例検討会が開催されました。

1事例目は、患者誤認防止のための「タイムアウト」の導入背景、実施内容などについて、実際に中央手術部や麻酔科のスタッフが実演したDVDを使用し分かりやすいスライドでの発表でした。2事例目は、救急医療部から「CPRコール」の重要性や患者急変時における記録の記載について発表していただきました。

アンケートでは、タイムアウト導入によりスタッフ間で新たな気持ちで臨みたい、また、手術以外にも、タイムアウトは使えるので取り入れたい等の意見が多く寄せられました。

最後に閉会の挨拶として米田医療安全推進部長より謝辞を述べられ、各部門リスクマネージャー及びその他医療従事者248名（初日200名、DVD上映会48名）が出席され、講演が盛会のうちに終了しました。



***** お知らせ *****

『医療に係る安全管理のための職員研修』（事例検討会・特別講演会等）の出席は、医療に係る全ての職員（病院で勤務する非常勤・大学院生＜診療許可有＞・アルバイト・派遣・委託職員等も含む）が年2回以上出席し、安全に関する意識の向上等を図るものとされています。

業務等の都合で出席できない方については、DVDの貸し出しや医療安全対策室横研修室で随時DVDをご高覧いただけますので、お問い合わせください。（内線2990、2991）

■リアルタイムエコーガイド下穿刺講習会

「中心静脈カテーテル（CVC）挿入」に関する医療改善委員会では、平成21年10月「中心静脈カテーテル挿入マニュアル」を作成しました。この中でDVD挿入の安全性を高めるため、エコーガイド下での穿刺を推奨しており、研修医をはじめとする5年目未満の医師に対し、シミュレーション講習会を開催しています。

更にエコーガイド下でのCVC挿入の普及には、上級医の技術習熟も必要であることから、3月20日（土）、近畿大学医学部附属病院 麻酔科学教室 医学部講師 梶川竜治先生をお招きし、技術習得を目的とした講習会も開催しました。

当日は、23名の医師が参加し、講義およびシミュレーターを用いた穿刺方法について学んでいただきました。先生方は興味深く質問され、何度も手技を試みるなど活発な講習会となりました。



CVC挿入に関する医療改善委員会委員長 土居先生



近畿大学医学部附属病院 麻酔科学 梶川先生(右から2人目)

■感染対策室より

「学生時代から守るべき標準予防策」 について

感染対策室 室長 浮村 聡

標準予防策について最近目にとまった話題を2つ示します。

先日第104回の医師国家試験が行われ、近年の国家試験と同様に感染対策関連の問題が出題されました。そのうちの1題は動脈採血の手技を問うもので、採血手技中の各ステップの写真を5枚示し、正しいものを選択する問題でした。標準予防策として採血時には前後の手洗いと手袋の着用が義務付けられています。問題の中で3枚の写真は素手で手技を行い、1枚は駆血帯が巻かれていることから静脈採血であり、残りの1枚、手袋を着用し、アルコール綿花で圧迫止血を行っているものが正解となります。

もう一つは医学生を対象としたウェブサイトの記事です。「救急をラウンドしている研修医が明らかな不隠状態の患者に遭遇し、髄膜炎を疑って採血、抗菌薬の投与、髄液検査、CTなどを行う中で採血中に振り返り血をあげたスタッフもいた。処置後家族に連絡をとったところその患者が免疫不全症候群（AIDS）で内服加療中であったことが判明し手袋をせずに患者に接触していたスタッフは、皆「えー!!!」と衝撃を受け、しばらく立ち直ることができず…」という内容でした。

さて今回の国家試験の問題の通りに動脈採血手技を行い、学生の手本となることが出来る先生は大阪医大に何%くらいおられるでしょうか？二番目の記事のような患者の処置後にあわてないですむ自信のある先生は何%おられますか？標準予防策は決して病院機能評価機構の診査のためだけに行うものではありません。咳のある患者の診察時のマスクの装着にせよ、血液の飛び散る可能性のある手技を行うときのゴーグル装着にせよ、普段から自然に行う習慣をつけることが求められています。そうすることが医療者自身の身を守り、それが患者の身も、病院の安全も守るための第1歩であることを認識していただきたいと考え紹介させていただきました。

寄付金報告

■ 創立80周年記念事業寄付金の応募状況について

<寄付金申込者>

平成22年1月1日から平成22年4月15日までの間の寄付金入金件数は、20件、金額は2,320,000円です。
ここに寄付金申込みをいただきました方々のご芳名を掲載させていただき感謝の意を表します。
なお、募集当初から平成22年4月15日までの寄付金入金件数は381件、金額は128,512,000円です。

(順不同・敬称略)

医療法人回生会 医療法人社団操健康クリニック 医療法人健栄会三康病院 武内 純夫
宮澤 健 後藤 紀夫 小野 秀太 坂本 和子 亀甲谷義高 大野 直樹 安藤 嗣彦
塚田 裕久 杉原 正章 永野 潜 中川比呂志 粟屋 直彦 浅利 千代 首藤 初子
匿名2件

■ 創立80周年記念事業募金別館講堂「机募金」応募状況について

<寄付金申込者>

平成22年1月1日から平成22年4月15日までの間の寄付金入金件数は、4件、金額は2,400,000円です。
ここに寄付金申込みをいただきました方々のご芳名を掲載させていただき感謝の意を表します。
なお、募集当初から平成22年4月15日までの寄付金入金件数は33件、金額は12,300,000円です。

(順不同・敬称略)

國澤 隆雄 木野 昌也 大藪 博 藤本 正三

■ 新学部設置事業寄付金の応募状況について

<寄付金申込者>

平成22年1月1日から平成22年4月15日までの間の寄付金入金件数は、1件、金額は50,000円です。
ここに寄付金申込みをいただきました方のご芳名を掲載させていただき感謝の意を表します。
なお、募集当初から平成22年4月15日までの間の寄付金入金件数は91件、金額は27,771,000円です。

(敬称略)

清木 康雄

■ 教育環境整備寄付金の応募状況について

<寄付金申込者>

平成22年1月1日から平成22年4月15日までの間の寄付金入金件数は、9件、金額は22,000,000円です。
ここに寄付金申込みをいただきました方のご芳名を掲載させていただき感謝の意を表します。
なお、募集当初から平成22年4月15日までの寄付金入金件数は53件、金額は116,800,000円です。

(順不同・敬称略)

医療法人酒井クリニック 杉多 正雄 白波瀬 功 伊丹 浩 中田 公人 森山 篤
高島 哲哉 匿名2件

■ 「別館」・「歴史資料館」維持事業に係る寄付金の応募状況について

<寄付金申込者>

平成22年1月1日から平成22年4月15日までの間の寄付金入金件数は19件、金額は2,866,460円です。
ここに寄付金申込みをいただきました方々のご芳名を掲載させていただき感謝の意を表します。
なお、募集当初から平成22年4月15日までの寄付金入金件数は24件、金額は3,043,460円です。

(順不同・敬称略)

寄付金報告 附属病院関係事項

医療法人川村会くぼかわ病院 医療法人千寿会 成松 正治 祐森 弘子 白井 久也
 牧野 文雄 奥村 正治 宇野 博志 石見 大八 清木 康雄 奥村 悦之 山口 春雷
 佐野 浩一 永野 潜 國澤 隆雄 匿名4件

■ 大阪医科大学基金の応募状況について

<寄付金申込者>

平成22年1月7日から平成22年4月15日までの間の寄付金入金件数は、10件、金額は2,470,000円です。
 ここに寄付金申込みをいただきました方のご芳名を掲載させていただき感謝の意を表します。

なお、募集当初から平成22年4月15日までの間の寄付金入金件数は130件、金額は14,092,000円です。
 (順不同・敬称略)

株式会社フロリスト花正 有限会社すばる印刷 岡田 仁克 木田喜代江 橋本 忠美
 三上 護 日野 義信 國澤 隆雄 西尾 元 清金 公裕

※これまで恒常的なご寄付はフレンズ会で承っていましたが、現在、「大阪医科大学基金」で承っております。
 今までどおり恒常的なご寄付を賜りますようお願いいたします。

<寄付についてのお問い合わせ>

募金推進本部
 TEL：072-684-7243(直通) FAX：072-681-3723
 E-mail：kikin@art.osaka-med.ac.jp

平成21年度下半期病院患者動態

■平成21年度下半期病院患者動態

	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	H21年度 平均	前年度 平均	対前年比 (%)※
延入院患者数 (人)	21,218	21,835	21,062	19,954	20,636	22,499	127,204	21,200.7	21,261.3	-0.29
(1日平均患者数) (人)	684.5	727.8	679.4	643.7	737.0	725.8	-	699.7	700.9	-0.17
(新入院患者数) (人)	1,293	1,314	1,145	1,372	1,235	1,393	7,752	1,292.0	1,265.0	2.13
(病床稼働率) (%)	84.6	87.6	81.8	77.5	88.7	87.7	-	84.5	85.8	-1.52
(平均在院日数)[全体] (人)	15.2	16.0	15.0	15.2	15.9	15.1	-	15.4	15.8	-2.53
延外来患者数 (人)	46,324	42,290	43,129	41,741	42,047	48,066	263,597	43,932.8	44,133.5	-0.45
(1日平均患者数) (人)	1,930.2	2,013.8	2,053.8	1,987.7	2,002.2	2,002.8	-	1,998.4	2,021.4	-1.14
(初診患者数) (人)	4,761	4,153	4,153	4,264	4,107	4,871	26,309	4,384.8	4,411.2	-0.60

■平成21年度年間動態

	入院				外来	
	1日平均患者数	1ヶ月平均新入院患者数	病床稼働率	平均在院日数	1日平均患者数	1日平均初診患者数
21年度	692.5	1,274	84.4%	15.6	1,978.9	199.7
増減率(20-21)	-3.51%	-1.32%	-3.54%	-1.89%	-1.10%	-2.39%

平成22年度採用 臨床研修医(臨床研修歯科医)

〔臨床研修医〕48名 〔臨床研修歯科医〕2名

主要会議報告

■主要会議とその主な議題(平成22年2月～4月)

【理事会】

[平成22年2月9日]

—審議事項—

1. 大阪医科大学健康科学クリニック規程の制定について
2. 大阪医科大学健康科学クリニック委員会規程の制定について
3. 大阪医科大学健康科学クリニック実務委員会規程の制定について
4. 大阪医科大学健康科学クリニック寄附講座規程の制定について

—報告事項—

1. 日本私立医科大学協会報告
2. 学校法人大阪医科大学の理事長、学長並びに附属病院長に関する職務権限の規定について
3. 学事関係報告
4. 病院関係報告
5. 看護専門学校関係報告

[平成22年3月9日]

—審議事項—

1. 理事の選任について
2. 監事候補者の選任について
3. 学校法人大阪医科大学相談役の設置に関する規程の一部改正について
4. 相談役の委嘱について
5. 第3号基本金の積み増しについて
6. 平成21年度補正予算について

—報告事項—

1. 担当理事運営会議報告
2. 健康科学クリニック収支見込について
3. その他

[平成22年3月18日] (臨時)

—審議事項—

1. 理事の選任について
2. 借入金について

—報告事項—

1. 学長報告

[平成22年3月30日] (その1)

—審議事項—

1. 平成22年度事業計画及び予算の概要について

2. 平成22年度予算について

3. 理事長の選任について

4. 病院長の選任について

5. 評議員(第3号)の選任並びに評議員(第5号)候補者の選出について

6. 大阪医科大学学則の一部改正について

7. 大阪医科大学大学院学則の一部改正について

—報告事項—

1. 平成21年度資金収支決算見込報告書について

2. 担当理事運営会議報告

3. 日本私立医科大学協会理事会報告並びに日本私立大学連盟報告

4. その他

[平成22年3月30日] (その2)

—審議事項—

1. 平成22年度事業計画及び予算の概要について

2. 平成22年度予算について

3. 評議員の選任について

[平成22年4月13日]

—審議事項—

1. 大阪医科大学看護学部教授会規程の制定について

2. 学校法人大阪医科大学理事会規程の一部改正について

3. 学校法人大阪医科大学就業規則の一部改正について

4. 学校法人大阪医科大学給与規則の一部改正について

5. 平成22年度学校法人大阪医科大学法人運営体制について

6. 周産期環境整備事業補助金の経緯と今後の方針について

—報告事項—

1. 共同ステートメントの内容について

2. 3大学共同学部プレスリリース報告

3. 各種規程の制定と一部改正について

4. 学事関係報告

5. 病院関係報告

6. その他

【評議員会】

〔平成22年3月9日〕（臨時）

—審議事項—

1. 平成21年補正予算について
2. 借入金について

—報告事項—

1. 看護学部設置の進捗状況について

〔平成22年3月30日〕

—審議事項—

1. 平成22年度事業計画及び予算の概要について
2. 平成22年度予算について
3. 監事の選任について
4. 評議員の選出について

—報告事項—

1. 平成21年度資金収支決算見込報告
2. その他

【医学部大講座主任教授会】

〔平成22年2月24日〕

—審議事項—

1. 各大講座からの報告
2. 大学院医学研究科長期履修制度の導入、大学院学則及び学位規程施行細則の一部改正について
3. その他

〔平成22年3月24日〕

—審議事項—

1. 新旧大講座主任教授の顔合わせ
2. 過去の大講座主任教授会の議題について
3. 今後の大講座主任教授会の運営について

〔平成22年4月14日〕

—審議事項—

1. 各大講座からの報告
2. 今後の大講座主任教授会の運営について
3. 大学院教員組織の立ち上げについて

【医学部教授会】

〔平成22年2月3日〕

—審議事項—

1. 人事に関する件

2. 図書館長候補者推薦委員会委員長の委嘱について

3. 特別協力研究員に関する内規の改正について

4. 大学院医学研究科に係る改革等について〔案〕

5. 大阪医科大学における研究生の取扱について〔案〕

6. 医学部定員増〔1学年10名増員〕に伴う総合・基礎教育の教員補充について

7. 看護学部のカリキュラムについて

8. 第1学年生の退学願い出について

9. 図書館長候補者の推薦について

10. 内科学講座内科学Ⅲ教室教授選考委員会での評価シートについて

—報告事項—

1. 学長報告

2. 研究機構長報告

3. 倫理委員長報告

4. 病院長報告

〔平成22年2月19日〕

—審議事項—

1. 平成22年度医学部入学試験に関する件

2. 人事に関する件

3. 内科学講座内科学Ⅲ教室〔循環器学専攻〕教授選考について

4. 大阪医科大学学則の一部改正について

5. 病院長予定者選挙管理委員会報告

6. その他

—報告事項—

1. 学長報告

2. 教育機構長報告

3. 病院長報告

〔平成22年2月26日〕臨時

—審議事項—

1. 平成22年度入学試験に関する件

—報告事項—

1. 学長報告

〔平成22年3月3日〕

—審議事項—

1. 平成22年度入学試験に関する件

2. 人事に関する件

主要会議報告

3. GPに関する内部評価委員会規程について
4. 大阪医科大学保健管理室規定の改正について
5. 図書館長選挙の結果について

—報告事項—

1. 学長報告
2. 教育機構長報告
3. 中山国際医学医療交流センター長報告
4. 病院長報告
5. その他

[平成22年3月16日]

—審議事項—

1. 平成22年度入学試験に関する件
2. 人事に関する件
3. 名誉教授称号授与に関する件
4. 兼務病院長の選考について
5. 内科学講座内科学Ⅲ教室〔循環器学専攻〕教授の選考について
6. 本年度末日で任期満了となる教授会での選出が必要な委員会委員の選出について
7. 大阪医科大学学則の一部改正について
8. 大阪医科大学医学部奨学金貸与規程の一部改正について
9. 医学部長の選任について

—報告事項—

1. 理事会報告
2. 学長報告
3. 倫理委員長報告

[平成22年3月20日] 臨時

—審議事項—

1. 平成22年度入学試験に関する件
2. 第1～4学年の進級合否判定について
3. 学部学生の復学願い出について
4. 大阪医科大学学則の一部改正について
5. 第2・4学年給付奨学生〔特待生〕の選考について

—報告事項—

1. 理事会報告
2. 学長報告
3. 広報・入試センター長報告
4. その他

[平成22年4月2日] 臨時

—審議事項—

1. 平成22年度入学者決定に関する件
2. 人事に関する件
3. 大阪医科大学安全対策委員会規程の一部改正について〔案〕
4. 大阪医科大学化学物質等管理規程〔案〕について
5. 大阪医科大学個人情報保護規程〔案〕について

—報告事項—

1. 理事会報告
2. 学長報告
3. 研究機構長報告

[平成22年4月7日]

—審議事項—

1. 人事に関する件
2. 本年3月末日で任期満了となった教授会での選出が必要な委員会委員の選出について
3. 個人識別情報管理者及び個人識別情報副管理者の任命について
4. 大阪医科大学協議会協議員について
5. 大阪医科大学個人情報保護規程〔案〕について
6. 大阪医科大学化学物質等管理規程〔案〕について
7. 第104回医師国家試験合格者状況について

—報告事項—

1. 学長報告

[平成22年4月21日]

—審議事項—

1. 人事に関する件
2. 本年3月末日で任期満了となった教授会での選出が必要な委員会委員の投票結果について
3. 大阪医科大学協議会協議員について
4. 大阪医科大学個人情報保護規程〔案〕について
5. 第104回医師国家試験合格者状況について
6. 学部学生の退学願い出について

—報告事項—

1. 理事会報告
2. 学長報告
3. 教育センター長報告

【大学院医学研究科委員会】

〔平成22年2月3日〕

—報告事項—

1. 平成21年度第3回学位論文審査日程について

〔平成22年2月19日〕

—審議事項—

1. 平成22年度大学院医学研究科入学試験合否判定について
2. 大学院医学研究科長期履修制度の導入及び大学院学則の一部改正について
3. 学位規程施行細則の一部改正について〔案〕
4. 学籍に係る件

—報告事項—

1. 大学院医学研究科3年生以下の成績評価等に関わる日程について
2. 医学研究科医学専攻に係る設置計画履行状況等調査の結果について
3. 平成22年度高エネルギー加速器研究機構における大学院学生の受入れについて

〔平成22年3月3日〕

—審議事項—

1. 大学院医学研究科長期履修制度の導入及び大学院学則の一部改正について
2. 学位規程施行細則の一部改正について〔案〕
3. 大阪医科大学大学院医学研究科履修細則別表の一部改正について〔案〕
4. 平成23年度大学院入学試験について〔案〕
5. 平成22年度大学院学位審査に係る日程について〔案〕

—報告事項—

1. 平成22年度第3回学位審査辞退に係る件
2. 臨床研究教育研修会の開催について
3. 平成21年度第3回学位授与式について
4. 平成22年度大学院医学研究科入学宣誓式について

〔平成22年3月16日〕

—審議事項—

1. 平成21年度第3回学位論文審査結果に基づく可〔合〕否決定について
2. 学費未納除籍について

3. 平成22年度研究生新規申請者及び継続手続完了者について

4. 大学院生の専攻授業科目の変更について

—報告事項—

1. 平成22年度大学院医学研究科入学手続者について
2. 平成22年度第2回臨床研究教育研修会について
3. 平成22年度大学院生の健康診断について

〔平成22年4月2日〕

—報告事項—

1. 大学院特別講義について

〔平成22年4月7日〕

—審議事項—

1. 退学願いについて
2. 学外研修許可願〔延長〕について
3. 平成22年度大学院医学研究科給付奨学金の支給について
4. 平成22年度大学院「統合講義」授業開講に伴う受講配慮及び未履修者への指導について〔依頼〕
5. 平成22年度大学院「共同利用実験施設セミナー」授業開講に伴う受講配慮及び未履修者への指導について〔依頼〕

—報告事項—

1. 日本学生支援機構奨学金募集について
2. 平成22年度学位申請について

〔平成22年4月21日〕

—審議事項—

1. 学外研修許可願について

—報告事項—

1. がんプロフェッショナル養成プラン4大学医療フォーラムについて

【大学協議会】

〔平成22年4月26日〕

—協議事項—

1. 大学協議会協議員の紹介
2. 大学協議会規程の確認
3. 学内規程類の見直しについて
4. 学生の福利厚生について
・食堂について

主要会議報告 入学試験・国家試験状況

- ・部活動について
- 5. 医学部・看護学部両学部の交流について
- 6. その他

【看護学部教授会】

[平成22年4月1日]

—審議事項—

1. 平成22年度看護学部入学者決定について
2. 各種規程について
3. 学事日程及び授業時間割について
4. 学生教育研究災害傷害保険について
5. 各種委員会委員の配置について

—報告事項—

1. 大阪医科大学広報・入試センターの役割及び平成21年度広報活動報告
2. 2010年度受験者募集イベント日程
3. 各種規程について
4. 看護学部教授会及び学科会議日程一覧

[平成22年4月14日]

—審議事項—

1. 奨学金貸与規程について
2. 基礎専門及び専門領域の英語表記について

3. 図書購入について
 4. 学事日程について
 5. 研究室・会議室の予約方法について
- 報告事項—

1. 看護学部平成22年度入学試験の報告
2. 事務編成について
3. 看護学部資金収支予算について
4. その他



入学試験・国家試験状況

■平成22年度入学試験状況

	志願者数	受験者数	入学者数
医学部医学科	2,411	2,167	114
大学院医学研究科	42	41	41
看護学部看護学科	732	707	88



■国家試験状況

		受験者(人)	合格者(人)	合格率(%)	全国平均(%)	大阪平均(%)
第104回	総数	112	92	82.1	89.2	
医師国家試験	新卒	99	89	89.9	92.8	
	既卒	13	3	23.1	52.4	
第99回看護師国家試験		71	69	97.2	89.5	89.5

保健管理室からのお知らせ

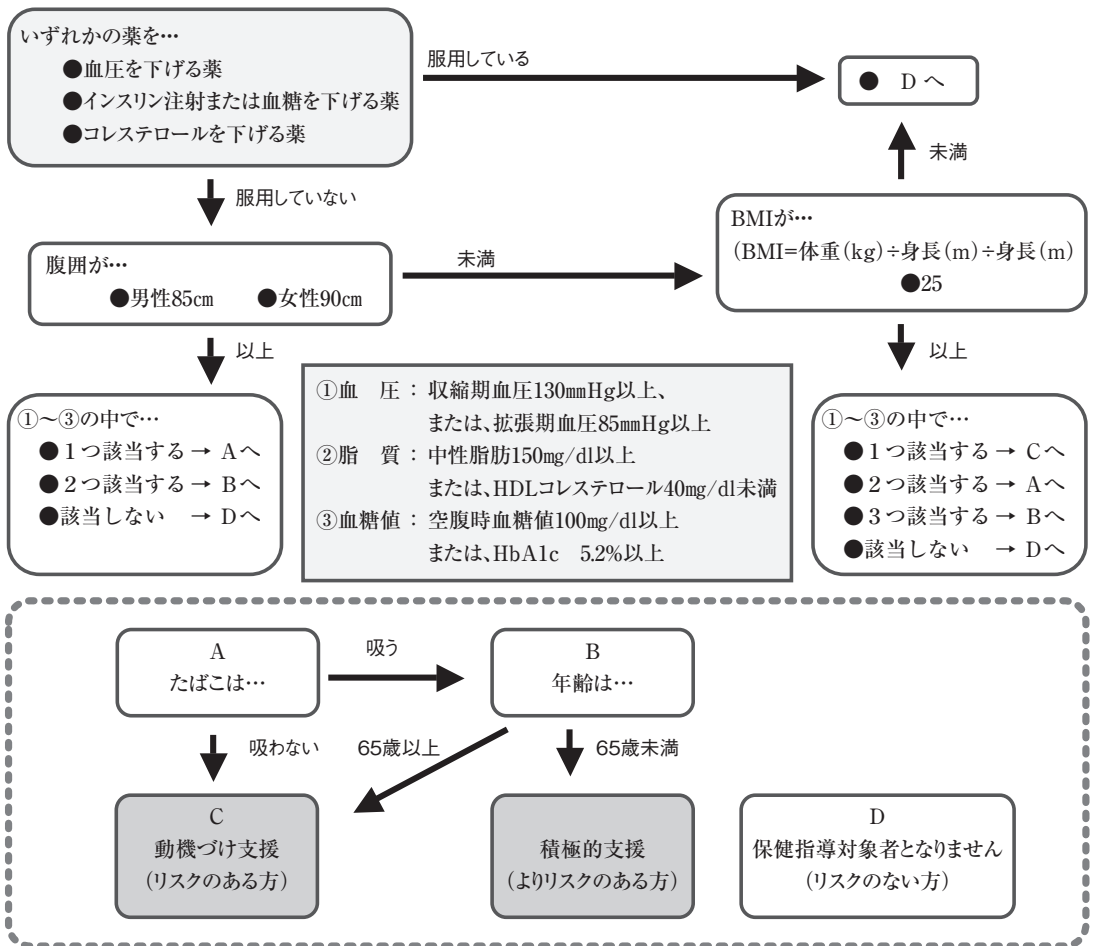
■ 平成21年度特定保健指導について

「高齢者の医療の確保に関する法律」（平成20年4月施行）に基づいて、40歳から75歳未満の医療保険加入者等（任意継続加入者及び被扶養者を含む）を対象に特定健康診査及び特定保健指導が義務付けられています。本学では、日本私立学校振興・共済事業団（以下「私学事業団」）の「私立学校教職員共済特定健康診査等実施計画」に従い、定期職員健康診断に併せて特定健康診査を実施しています。

特定健康診査では、私学事業団においてメタボリックシンドローム該当者及び予備群に相当する保健指導対象者が選定され、指定保健指導機関での特定保健指導（「動機付け支援」「積極的支援」）が実施されます。平成20年度は私学事業団の諸事情により、特定保健指導が見送られましたが、平成21年度は実施される予定です。対象者には私学事業団より「特定保健指導利用券」が送付されますので、同封の案内を熟読の上、保健指導を受けて下さい。

また特定健康診査や保健指導の対象でなかった方も、健診での所見の有無に関係なく健康診断結果を活用して、自分自身の体の状態や生活習慣を振り返ってみましょう。

特定保健指導対象者の判定基準



保健管理室からのお知らせ

★歩数計を貸し出しします！！

保健管理室では歩数計（Panasonic EW4800P）の貸し出しをしています。

生活（身体活動）パターンや消費カロリーの推移を1日単位でグラフ化し、客観的に見ることが出来ます。一般的な歩数計と同じように装着し、いつものように生活して頂くだけです。歩数表示の他、1日のエネルギー総消費量・運動量などが表示され、運動の強度判定も表示可能です。これらのデータからご自身の生活習慣を客観的に知ることが出来ます。是非ご利用下さい！！

■ カウンセリングのご案内 ～一人で抱え込まないで、早めに相談しましょう～

新年度に入り、異動、入職、入学など環境が大きく変わる時期です。新しい環境、生活に慣れるためにストレスが高まりやすく、疲れがとれない、気持ちが落ち込みやすい…など心身ともに疲労状態となります。この状態が続くと、中にはうつ病など心の病気に陥ってしまうこともあります。身体疾患と同様にこころの不調も早めの対処が重要ですので、“しんどいな”と感じたら上司や先輩、友達に相談しましょう。また本学の保健管理室には臨床心理士が常勤し相談業務を行っていますので、気軽にご利用下さい。

なお相談内容の秘密は厳守しますので、ご安心してお越し下さい。

【利用方法】

- ① 保健管理室（研究棟1階）に直接来室して下さい。あらかじめ日時を予約することもできます。
- ② 電話、メールでの問い合わせ、予約も受付けています。
- ③ 受付時間：月～金曜日 9：00～17：00（予約有の場合、17：00以降でも可）
- ④ 問い合わせ先：072-684-6560（カウンセリング直通電話） E-mail：hokekan@poh.osaka-med.ac.jp

■ 平成22年度B型肝炎ワクチン接種スケジュール

平成22年度B型肝炎ワクチン接種を下記のように実施します。

		6/3（木） 6/4（金）	7/1（木） 7/2（金）	12/2（木） 12/3（金）	平成23年 1/20（木） 1/21（金）
時 間、場 所		保健管理室15：30～16：30			15：00～16：00
新規	初めて受ける人 抗体を獲得したことがない人	1回目 ワクチン接種	2回目 ワクチン接種	3回目 ワクチン接種	抗体確認検査
追加	以前ワクチン接種で一度抗体を 獲得した人	追加 ワクチン接種	抗体確認検査		

■ 特定業務従事者健診、有機溶剤・特定化学物質健診のご案内

平成22年度特定・深夜業務従事者健診、有機溶剤・特定化学物質健診を実施します。この健診は労働安全衛生法第66条第2.3項、有機溶剤中毒予防規則第29条、及び特定化学物質等障害予防規則第39条に基づいて実施します。

対象者には事前に健診案内を配布しますので、日時などを確認の上、必ず受検して下さい。

【実施日時】平成22年5月26日（水）～28日（金） 9：00～15：30

【場 所】保健管理室、第7、8会議室（総合研究棟1階）

■ 長時間労働者健診のご案内

平成22年度春季 長時間労働者健診を実施します。

【対 象 者】平成21年9月～平成22年3月の間、月45時間以上の時間外・休日勤務をし、産業医が必要と認めた職員

【実施日時】平成22年5月26日（水）～28日（金） 9：00～15：30

【場 所】保健管理室、第7、8会議室（総合研究棟1階）

平成21年度LDセンター活動予定

2010年度 講習会・研修会予定表

月 日	曜	時間	講演内容	講師名(予定講演順)
5月9日	日	午後	発達障害かと気がかりな子どもの幼児期/就学前のことばの発達とその援助	竹田契一 中川信子
5月より3回	火	午前	低学年の子どものためのソーシャルスキル指導(5月11日、25日、6月8日)	西岡有香
5月23日	日	午前	発達障害の子どもの評価で使う検査とその見かた	西岡有香 栗本奈緒子
	日	午後	幼児期にしておきたい学習の基礎作り(就学前にことばの力を育てる)	里見恵子 松尾育子
	日	午後	学校での発達障害支援システムAtoZ	山田 充
6月7日	月	午前	子どもの姿勢と体の動き、手の操作	芳本有里子
6月12日	土	午後	発達障害の子どもの見られる視覚能力の問題とその指導 基礎編	奥村智人
	土	10時-16時	幼児のアセスメント研修(K-ABCを使った事例)	高畑芳美 西岡有香 水田めくみ
6月26日	土	10時-16時	幼児と気になる小学低学年の子どもの指導の手立て	栗本奈緒子 水田めくみ 芳本有里子 奥村智人
6月27日	日	10時-16時	園児の個別の指導計画はどのように作成すればよいか	西田和子 松尾育子 西岡有香
7月5日	月	午前	手の操作へのアプローチ	芳本有里子
7月10日	土	午後	発達障害の子どもの見られる視覚能力の問題とその指導 実践編(1)	奥村智人 中村靖史 横場政晴
7月31日	土	午後	「怠けてる」っていわないで～不登校の子どもの多い起立性調節障害への正しい理解と対応	田中英高
	土	10時-16時	発達障害アセスメント研修会(WISC-Ⅲを中心に)	山田 充 栗本奈緒子 水田めくみ
8月1日	日	10時-16時	関西カリスマ教師対決 算数と国語の教科の指導と学級経営	竹田契一 山田充 村井敏宏 小林祐子 松久真実
8月7日	土	午後	発達障害の子どもの見られる視覚能力の問題とその指導 実践編(2)	奥村智人 水田めくみ
8月8日	日	10時-16時	書字の誤り分析から子どもが困っていることを推理する	森田安徳 西岡有香 栗本奈緒子
8月28日	土	午後	発達障害と遅れのある子どもの行事への参加を促す手立て	里見恵子 秋元壽江 平光登志子
	土	10時-16時	読み書き障害事例での指導計画作成 評価に基づく適切な目標と手立てが考えられるようになる	村井敏宏 水田めくみ 栗本奈緒子
9月4日	土	10時-16時	視覚能力のアセスメントとトレーニング ワークショップ①	奥村智人 三浦朋子 中村明子
9月より2回	火	午前	ちょっと気になる子どもの子育て応援(9月14日、10月12日)	西岡有香
10月より2回	火	午前	高学年の子どもへのソーシャルスキル指導(10月26日、11月9日)	西岡有香
10月29日	金	午前	子どもの「見る」「聞く」力の理解とその指導	栗本奈緒子 竹下盛
10月31日	日	午後	ほめる、無視する、叱るの使い分けを学ぶ ペアレントトレーニングの実際	中田洋二郎 水田めくみ
11月3日	水	10時-16時	算数での子どもの誤り分析 誤り分析から子どもの学び方の違いを考える	山田 充 今村佐智子
	水	午後	なぜそんなことをするの? どうしてわからないの? 健診・園での気づきのポイントから	松本恵美子 高畑芳美
11月20日	土	午後	ダウン症の幼児期の発達支援 保育園幼稚園で応用できるLDセンターダウン症プログラムから	玉井浩 玉井るか 中島順子
11月21日	日	終日	10周年記念 センターの歩み	玉井浩 竹田契一 若宮英司 奥村智人 栗本奈緒子 水田めくみ 竹下盛
11月30日	火	午前	子どもの「読む」力「書く」力の理解とその指導	水田めくみ
12月4日	土	午後	文字を習得する道筋/How to 就学前の文字指導	若宮英司 村井敏宏
12月18日	土	午前	体を使う遊びにはどんな意味と効果があるのか(感覚刺激や運動が脳の成長に役立つ)	中尾繁樹
	土	午後	幼児期に身につけたい対人関係能力を育てるには	松尾育子 西岡有香
12月23日	木	10時-16時	WISC-ⅣはWISC-Ⅲとどう変わったか	上野一彦 他1名
1月15日	土	10時-16時	視覚能力のアセスメントとトレーニング ワークショップ②	奥村智人 三浦朋子 中村明子
1月22日	土	午後	「なんか違う」につなげる観察のポイントとその後のフォローのしかた	玉井 浩 岡田みちる
1月31日	月	午前	かぞえる・くらべる 算数の学習に必要な基礎力とは	栗本奈緒子
2月5日	土	午後	障害のある子どもの保護者に寄り添う支援者とは	金 泰子
2月から3回	火	午前	幼児期のソーシャルスキル指導(2月8日、22日、3月8日)	西岡有香
2月26日	土	午後	保護者への子どもの課題の伝え方: 保護者対応についての実践的トレーニング	玉井邦夫
3月12日	土	午後	学校でソーシャルスキルをどう教えるか① アメリカでの取り組みから	竹田契一 西岡有香
3月13日	日	10時-16時	学校でソーシャルスキルをどう教えるか② 教科学習への取り入れ方、幼児期、ロールプレイ例	竹田契一 栗本奈緒子 西岡有香
3月19日	土	午後	気になる子が育つわくわく授業(成功例を中心に)	竹田契一 品川裕香

(詳細は案内本文でお確かめ下さい。)

歴史資料館関係 俳句

■歴史資料館市民講座

第3回 歴史資料館市民講座が、下記の通り開催されました。

日時：平成22年3月6日（土）14：00～15：00

場所：別館3階 講義室

演題：高槻 寒天雑話 ―食用としての寒天・医用としての寒天―

講師：微生物学 教授 佐野 浩一

参加者：約90名



【歴史資料館展示資料恵与者】

平成21年10月1日から平成22年3月31日までに1名の方（別表）より
ご恵与賜りました。本事業の趣旨をご理解いただきましたご厚意に対しましてここに改めて心よりお礼申し上げます。

（敬称略）

受領日	恵与者氏名	資料名	恵与者と本学の関係
H22.3.8	勝 健一	大阪医大剣友会名簿 1965年度	医学部 昭和40年卒

◆大阪医科大学俳句会（二・三・四月）

飛行機の大きな姿や春の空

山崎隆司

下町は都会のゑくぼ霞草

同

アネモネの鉢の芽やうやく揃ひけり

今井雄介

亡父の年越えたと思ふはこべかな

同

はら葉なれば布袋図春浅き

中川一成

入学の子にいくつある袋かな

同

揚雲雀西行ゆかりの江口の里

吉田孝江

花鳥賊や大徳利と安来節

同

雪割草耐ゆるをみせぬ越女

飯塚久子

紅白梅垣を低めて隣どち

同

煮凝や人に逢はざる日々過し

美濃 眞

砂糖壺塩壺真白万愚節

同

春泥の靴を揃へて足湯かな

宮脇芳美

女の子赤はきらひと入学す

同

● 看護学部研究棟竣工と定礎式 ●



平成22年3月19日（金）14時から國澤理事長、林看護学部開設準備室室長はじめ関係各位の皆様のご臨席のもと看護学部研究棟の定礎式が行われました。当日はお天気にも恵まれ、晴れ渡る空の下、美しい研究棟を皆様とともに定礎式、内覧することができましたことを心より感謝申し上げます。とりわけ、類設計、銭高組、その他工事関係者の皆様には、細部に至るまで御苦心をいただきました。この日を迎えることができましたのも、歴代の学長はじめ長年にわたって多くの皆様のご尽力とご支援があったからこそと改めて感慨深くしております。

さて、4月に看護学部が開設されましたら、ぜひ皆様お気楽にお越しください。看護学部教職員一同、心より、お待ちしております。

看護学部開設準備室

表紙絵：三色堇（さんしきすみれ） バンジー（ビオラ） スミレ科スミレ属
イギリスに自生する三色スミレがその元であり、交雑、交配を繰り返し園芸用に改良された。その数400品種以上あり、花卉の色、大きさがまちまちである。

花の中心部にある紫や赤の模様がこの花の特徴である。

寒さに強く、暑さに弱い。花期は11月～5月である。寒い時期から、よく見かけられるので、冬季のものかという印象があるが、本来春（晩春）の花である。

名誉教授 富士原 彰

個人情報の取扱いについて：

平成17年4月1日から個人情報保護法が施行されました。これに伴い総務部では、学報の発送にかかる個人情報につきましては、個人情報保護法を遵守し、適切な管理を行っております。

なお、収集・管理する個人情報につきましては、発送の目的以外に使用することはありません。

学報に関する個人情報についてのお問い合わせは、下記までお願いいたします。

大阪医科大学 総合企画部 学報編集担当係 電話 072-683-1221代
E-mail : gakuho@art.osaka-med.ac.jp

大阪医科大学学報 第84号

発行年月 平成22年5月

発行 学校法人 大阪医科大学

編集・発行 総合企画部

印刷 大日本印刷株式会社

大阪医科大学ホームページ

<http://www.osaka-med.ac.jp/>